

昭和61年度版

三重県こころの健康センター所報  
(精神衛生センター)

三重県保健環境部保健予防課

## 三重県こころの健康センター所報の発刊に当たって

急速に変化する現代社会において、県民の心の健康の保持・増進を図っていくことは、従来にも増して重要な課題となっております。

このような背景の中で、昭和61年5月、地域精神保健の向上のための技術的中枢機関としての役割を担って、「こころの健康センター」の名称で、精神衛生センターを開設いたしました。

以来、約2年が経過しようとしておりますが、この間、保健所等に対する技術指導・援助や各種教育研修、さらには、テレフォン相談をはじめ各種精神衛生相談事業などを行ってきており、それなりの実績を挙げることが出来ました。

幸いにも、当センターは、久居市に現在建設中の県出先庁舎に移設し、本年10月には、再整備を図り、オープンに向ける運びとなっております。

このたび、当センターの業務内容、実績等を紹介した「所報」を発刊いたしましたので、参考にしていただければ幸いと存じます。

最後に、当センターの業務の推進につきまして、今後とも充実強化に努めてまいりますので、皆様各位には益々のご活用とご指導、ご協力をお願い申し上げます。

昭和63年 3月

三重県保健環境部長

石 須 哲 也

# 目 次

第1編 運営の概要	1
1 沿革	1
2 三重県こころの健康センター事業概要	1
3 組織及び職員	2
第2編 事業の概要	3
1 技術指導援助	3
(1) 保健所に対する技術指導援助	3
(2) 関係機関への技術指導援助	4
2 教育研修	6
(1) 教育研修について	6
(2) 教育研修会	6
(3) 精神衛生相談員資格取得認定講習会	10
3 広報普及	13
(1) 広報普及について	13
(2) 講演会	15・16
(3) 他機関から依頼の講演会、座談会、講義、連絡会議	15・16
(4) マスメディアを利用した広報啓発(テレビ、ラジオ、新聞等)	17
(5) 印刷物による広報啓発	18
(6) 精神保健講座	18
4 精神衛生相談	19
(1) 相談事業	19
(2) 相談状況	21
5 協力組織の育成	26
(1) 家族会との関係	26
(2) 断酒会との関係	26
(3) 今後の家族会活動に向けて	27
6 こころの健康づくり推進事業	28
(1) 目的	28
(2) こころの健康づくり教室	28

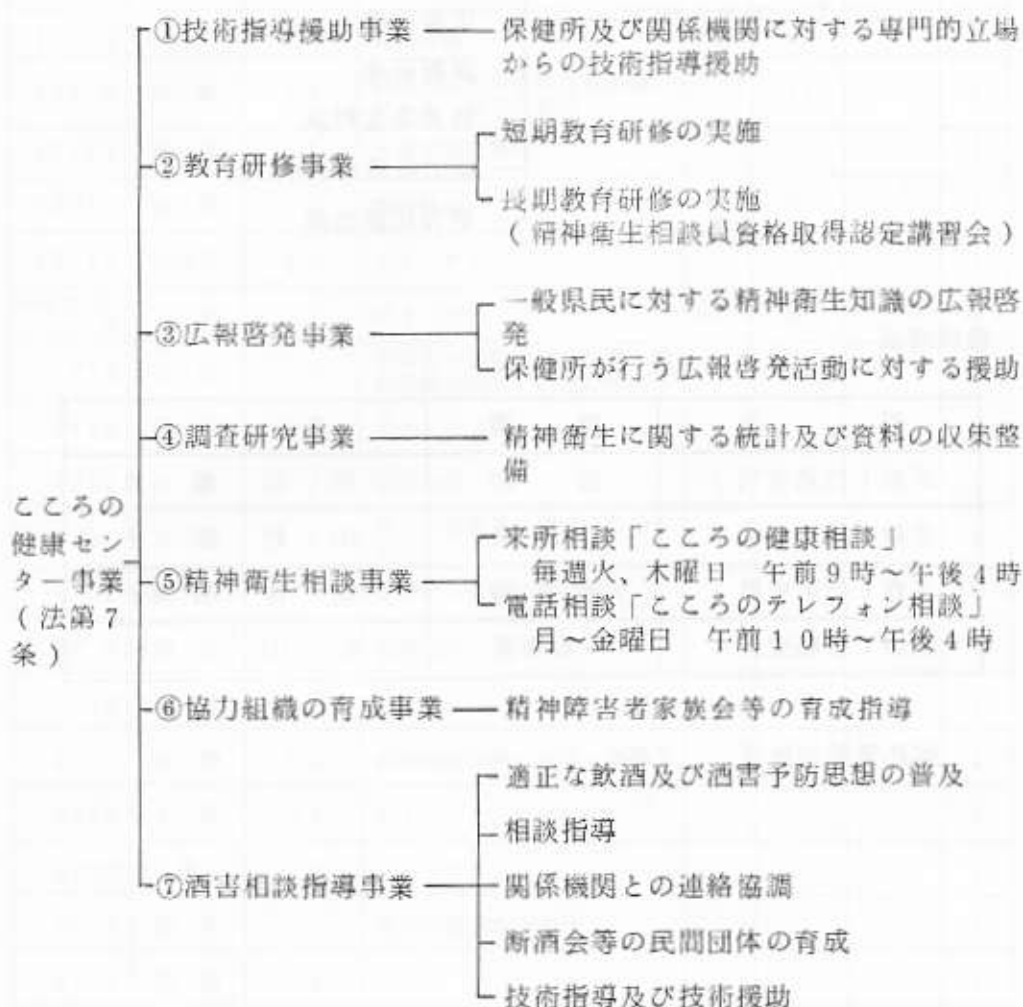
第3編 資 料 .....	37
精神障害者の現状 .....	37
(1) 措置入院患者状況 .....	37
(2) 措置入院患者の推移 .....	38
(3) 保健所における精神障害者の訪問、相談活動 .....	39
(4) 保健所における老人精神衛生訪問、相談活動 .....	41
(5) 精神障害者通院医療費公費負担承認件数 .....	42
(6) 保健所における精神障害者社会復帰訓練事業 .....	44
(7) 保健所における精神保健活動について .....	45
第4編 精神保健社会資源 .....	46
(1) 精神病院 .....	46
(2) 保健所 .....	47
(3) デイ、ケア実施状況 .....	47
(4) 精神障害者家族会 .....	48
(5) 断酒会（三重断酒新生会） .....	49
(6) 福祉関係機関 .....	50
第5編 関連地域社会資源 .....	53
(1) 精神薄弱者福祉施設 .....	53
(2) 児童福祉施設 .....	54
(3) 老人福祉施設 .....	56
第6編 ところの健康センター図書目録 .....	59

# 第1編 運営の概要

## 1 沿革

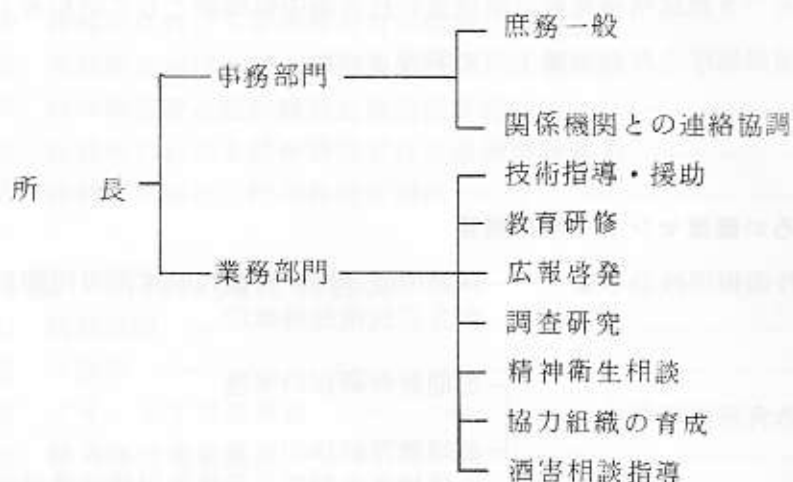
三重県こころの健康センター（三重県精神衛生センター）は、精神衛生法第7条の規定に基づき地域精神保健活動推進の技術的中枢機関として昭和61年5月1日、三重県津庁舎保健所棟1階に開設された。

## 2 三重県こころの健康センター事業概要



### 3 組織及び職員

#### 所掌事務



#### 職員構成

職名	職種	氏名
所長（技術吏員）	医師	原田 雅典
主幹（技術吏員）	看護婦	中村 洋子
主査（技術吏員）	保健婦	安保 明子
主事（事務吏員）	一般事務	松川 勉

嘱託電話相談員 2名

## 第2編 事業の概要

### 1 技術指導援助

#### (1) 保健所に対する技術指導援助

実施年月日	保健所名	対象人数	備 考	医師	看護婦	保健婦	計
昭和61年 9 / 2	津	15人		○	○	○	3
11 / 17	松 阪	10	児童相談所・病院・市福祉事務所の職員	○		○	2
12 / 1	尾 鷲	6	センター活動状況の説明、保健所の精神保健の現状と課題			○	1
12 / 1	熊 野	7	〃			○	1
12 / 4	津	15	連絡会議	○	○		2
12 / 5	伊 勢	24	管内市町村衛生担当者会議 センター事業の説明		○		1
12 / 11	鈴 鹿	12	児童相談所職員			○	1
12 / 15	志 摩	7	事例検討		○		1
12 / 19	四日市	50	デイ・ケア		○		1
昭和62年 1 / 9	上 野	17	デイ・ケア		○		1
1 / 12	久 居	7	センター活動状況の説明、精神保健の現状(措置の状況)		○		1
1 / 16	四日市	20	デイ・ケア			○	1
1 / 22	鈴 鹿	7	事例検討		○		1
1 / 26	志 摩	7	精神保健事業の現状と今後の対策			○	1
1 / 30	桑 名	5	センター活動状況の説明			○	1
2 / 9	熊 野	7	事例検討		○		1
2 / 10	尾 鷲	2	〃		○		1
2 / 16	伊 勢	10	精神保健業務の現状と課題			○	1
2 / 20	上 野	22	デイ・ケア、事例検討	○		○	2
2 / 25	津	29	デイ・ケア		○		1
3 / 4	桑 名	9	精神保健業務の現状		○		1
3 / 6	松 阪	9	〃		○		1
3 / 11	津	34	デイ・ケア			○	1

実施年月日	保健所名	対象人数	備 考	医師	看護婦	保健婦	計
3/12	鈴 鹿	10人	事例検討、同伴訪問	○		○	2
3/16	久 居	8	事例検討	○		○	2
3/23	津	8	〃			○	1
3/23	上 野	20	デイ・ケア	○			1
合 計		377		7	13	14	34

(2) 関係機関への技術指導援助(関係機関より依頼のあった困難な事例についての援助)

月 日	関 係 機 関	対 象 者	備 考	医 師	看護婦	保健婦	計
昭和61年 11/10	津市福祉事務所	ケースワーカー1名		○			1
11/25	久居保健所	保健婦1名		○			1
11/27	津保健所 中央児童相談所	津保健所、中央児 相心理判定員1名		○			1
11/27	県立小児心療セン ター、あすなろ学園	看護婦1名	入所者(児 童)1名 と来所	○			1
12/11	久居市小学校	養護教諭1名		○			1
12/15	津保健所	保健婦2名		○			1
12/18	中央児童相談所	心理判定員1名 保健婦1名		○			1
12/20	津保健所	保健婦1名		○			1
昭和62年 1/7	松阪保健所	精神保健担当者 1名		○			1
1/8	松阪保健所 松阪市福祉事務所	保健婦1名 ケースワーカー1名		○		○	2
合 計		13名		10		1	11



精神衛生センターはその業務の一つとして、地域精神保健活動を推進するために、保健所及び関係機関に対し、専門的立場から積極的な技術指導ならびに技術援助を行うとされている。

当センターも、昭和61年5月、開設と同時に関係機関に対する技術援助を開始したが、振り返ってみると、残念ながら不十分なままに終わったといわざるを得ない。

初年度であって〈精神衛生センター〉に対するコンセンサスが十分得られなかったことや、仮オープンという事情のために、業務を遂行しながら在るべき〈センター像〉を模索しなければならなかったこと等、謂わば生みの苦しみが影響しているように思われる。

技術援助に当たる場合、センターから関係機関へ出向いて行う場合と、関係機関がセンターに出向いて行われる場合とがあるが、回数から見ると前者が後者の3倍となっている。関係機関からセンターへ技術援助を依頼する場合、直接来所、電話、文書等様々な形式が考えられるが、ケース・バイ・ケースで最も効率の良い方法を気楽に利用して頂きたいものである。保健所以外の各分野、教育、労働、福祉等はセンターにて連携ルートが確立されていない為、センターのこのような技術指導機関としての側面を効果的に広報していく必要がある。

一方センターから出向いて行う技術援助の場合、その対象は保健所に限られた。内容としては、初年度ということを反映して、情報交換としての連絡会議を基本にしながら、事例検討会への参加、助言、グループ活動への参加、助言等が行われた。センターからは医師、看護婦、保健婦が派遣されてこれに当たったが、実践の場における技術援助の方法、連携の在り方等、手探り状態で試行錯誤を重ねたというべきであろう。今後も保健所、センター相方が共働して、県下の実状に即した方法を確立すべく努力すべきであろう。

## 2 教育研修

### (1) 教育研修について

地域精神保健活動を推進していくためには、保健所を中心とする地域精神保健活動の展開を図る必要から主として保健所および関係機関職員を対象に必要な知識及び技術の研修を行った。

### (2) 教育研修会

年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数
昭和61年 11/11	精神保健 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 講 演 テーマ 「これからの地域精神保健活動」 講 師 愛知県精神衛生センター所長 伊藤克彦</li> <li>• 講 演 テーマ 「地域精神衛生活動における保健婦の役割」 講 師 愛知県碧南保健所 保健婦 神谷三千代</li> </ul>	保健所精神 保健担当者、 保健婦	人 30
昭和62年 1/27	精神保健 研修会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 講 演 テーマ 「精神障害について」 講 師 県立高茶屋病院長 若生年久</li> <li>• シンポジウム テーマ 「こころの病」（それぞれの立場からみた問題） シンポジスト 上野保健所長 山田安衛 県総合教育センター研修主事 無藤賢治 県警本部防犯課 太田 忠 県警本部少年課こまりごと相談員 安藤安明 障害福祉課 主幹 訓堀尊雄</li> </ul>	福祉、教育、 警察、保健 所の担当者 相談員等	人 100
2 / 24	事 例 検 討 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 事例のとり方、情報の収集、分析 事例(1) 身寄りのない精神分裂病患者の退院に際し、病院からの依頼で、市営住宅での生活を支援した過程</li> </ul>	保健所保健 婦、精神保 健担当者	人 30

年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数
		事例② 結核登録から訪問したCaseが分裂病で入院中、姉は分裂病で治療放置、母は精薄、妹は登校拒否の家族に対する保健婦のかかわりと関係機関の連携のあり方を考える過程		

### シンポジウム「こころの病」

#### (保 健 所)

時代の移り変わりと共に保健所の精神衛生の流れ、その折々の問題点にふれるなかで今後精神保健を推進していく為の課題として以下の様に示された。

- 1) 地域家族会がない
- 2) 中間施設、職親制度がない
- 3) マンパワーの不足
- 4) 偏見の根強さ
- 5) 総合的な医療及び予防体系の不足

#### (教 育)

教育サービスに関する事業、悩み相談 (TEL28-1327) の結果 1位交友関係 2位登校拒否 3位学習の内容 4位家族に関する事、の順で、社会情勢の複雑化に伴い人間関係に起因するものが増加しつつある。

障害や病を持つ子供に対し、教育サイドでどう判断し、どこまでかかわれるかを考えた場合、社会資源の有効な活用、互いの連携の必要性を痛感する。

#### (警 察)

昭和61年度保護件数630件で、その内容は 1.精神錯乱者94人 2.精神病院無断退居者7人 3.泥酔者245人 4.迷子108人 5.病人10人 6.家出91人となっており、このうち精神障害によるものが全体の16

%を占めている。

応急時保護という状況で問題となってくるのは精神錯乱等の症状悪化急変に対処できないことで、病院、保健所の協力を切望する。

暴力行為等、危険が伴う場合は警察も積極的に協力したい。

又、あくまで被保護者の人権に鑑み、関係機関の協力により早期発見、早期治療に力を注いで、警察で保護しなければならない状況を減少させなければならない。

#### ( 福 祉 )

障害を持った人の暮らしの援助という観点から、周囲の誤った偏見があったり、障害そのものの援助だけに目が向いており、暮らしの内容を高めるための施策がなかった。暮らしの援助のためには福祉、教育、医療、生活の援助サービスの総合的な提供のあり方が必要、専門家に任すのみでなく地域全体で考えなければならない。

このことを実現化するには ①地域に於けるサービスの組織化 ②サービス部門のネットワークづくりが必要である。

このあと全体会議が行われ、参加者の中からも困難事例が紹介されるなかで、縦割行政の弊害を感じると共に、ち密なネットワーク作りの必要性を確認し合った。

#### 講 演

[ 精神障害の理解について ] 三重県高茶屋病院長 若生年久

1. 心に障害を持つ人とは
2. 心に障害を持つ人との出逢い

こちら側の構え：

理解しようとする態度

援助しようとする態度

治療しようとする態度

一瞬の情報収集：

外観・・・体格、年齢、服装、化粧、頭髪、清潔度、姿勢、作法、歩き方、座り方、変な印象の有無、等

その後の観察：

心の状態・・・表情（快、不快、抑うつ、不安、苦悶、表情過多、無表情）  
姿態、話し方（調子、多弁、緘黙、途絶、迂遠）、感情の動き方、考え方（異常な考え—妄想、空想、虚言など無いか）、書字の特徴、知能程度、性格特徴、等

問題点の把握：

本人からの情報と周囲からの情報の整理、記録

働きかけ：

観察しつつ働きかける

### 3. 問題の種類

健康な範囲のものか、病的なものか：

精神発達の問題、性格の障害、一次的な心の反応、神経症、うつ病、精神病、薬物中毒、脳の器質性障害

問題の背景は：

家庭、親子関係、夫婦関係、職場、友人、経済状況、最近の出来事、身体状況

### 4. 心の障害の具体像

#### 1) 軽い適応障害：

賭博、飲酒、金銭浪費、遁走症

#### 2) 性格上の問題

分裂気質、循環気質、軽躁気質、抑うつ気質、強迫性格、ヒステリー性格、その他性格傾向・・・不安、心気症、攻撃、意思薄弱、依存

#### 3) 性格発達：

好訴症、偏執病（パラノイア）、発明妄想、嫉妬妄想など

#### 4) ボーダーライン人格：

摂食障害、窃盗癖、自殺企図、無気力症

- 5) 神経症
- 6) 心因性反応
- 7) うつ病
- 8) 躁うつ病
- 9) 精神分裂病
  - 軽症の分裂病、破瓜病、緊張病、妄想型、人格欠損
- 10) 非定型精神病
- 11) アルコール症
- 12) 覚醒剤中毒
- 13) 老人精神障害

(3) 精神衛生相談員資格取得認定講習会

○講習会の趣旨

この講習会は、保健所保健婦を対象に精神衛生業務に必要な知識と技能の修得を目的に下記日程により実施した。

昭和61年度は県内18名、県外16名、計34が受講した。ちなみに、県内保健所保健婦90名中49名が有資格となった。以後2年間継続して実施する計画で保健所保健婦の殆んどが資格を有することになろう。

昭和61年度 精神衛生相談員資格取得認定講習会

- 1. 期 間：昭和61年7月7日(月)～8月15日(金)
- 2. 講習時間：社会福祉、臨床心理 39時間
  - 精神衛生行政及び関連行政 12時間
  - 精神医学概論 27時間
  - 精神衛生 39時間
  - 実 習 100時間

3. 会 場：講 義 三重県津庁舎 1 階第 1 会議室

〃 保健所衛生教育室

( 津市桜橋 3 丁目 4 4 6 - 3 4 )

病院実習 ・ 四日市日永病院  
・ 厚生連鈴鹿厚生病院  
・ 県立高茶屋病院  
・ 県立小児心療センターあすなろ学園

訪問指導実習

桑名、四日市、鈴鹿、津、久居、松阪、伊勢、  
上野保健所

関連施設実習

・ 中央児童相談所  
・ 精神薄弱者更生相談所  
・ 三重県いなば園

#### 4. 基本日程

時 間	9:00-10:30	10:40-12:10		13:00-14:30	14:45-16:15
時 限	I	II		III	IV
課 業	講	義	昼 食	講	義

( 注 ) 実習については、実習施設の始業及び終了の時間とする。

講 習 会 日 程 表

月日	曜日	9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:45	16:15		
7/7	月	開 講 式 オリエンテーション		精神保健行政の現 状(小林秀資)		社会福祉概論(高島 進)					
8	火	社会福祉概論(高島 進)					三重県における精神衛生の現状 (石塚正敏)				
9	水	医学的心理学(服部尚久)					地域精神衛生活動総論(杉村巧平)				
10	木	てんかん (原田雅典)		老年期の精神障害 (原田雅典)			神経症(原田雅典)				
11	金	医学的心理学(服部尚久)					地域精神衛生活動総論(杉村巧平)				
12	土	精神分裂病(原田雅典)									
13	日										
14	月	精神医学概論(野村純一)					医学的リハビリテーションⅠ (若生年久)				
15	火	精神衛生総論(坂本 弘)					うつ病 (藤田一郎)				
16	水	カウンセリング技術論(坂本 弘)					カウンセリング技術実習(杉浦静子 ・奥山みき子)				
17	木	老人精神衛生と医療の現状(大塚俊男)					中毒性精神障害(原田雅典)				
18	金	共同作業(濱崎 寿)					カウンセリング技術実習(杉浦静子 ・奥山みき子)				
19	土	児童青年精神医学(稲垣 卓)									
20	日										
21	月	カウンセリング技術論(坂本 弘)					カウンセリング技術実習(杉浦静子 ・奥山みき子)				
22	火	患者を支える家族(山崎晴彦)					医学的リハビリテーションⅡ (大越 崇)				
23	水	デイケア活動のすすめ方(平野 直)					障害と福祉 (訓湖尊雄)				
24	木	人格障害 (原田雅典)		生活保護 (岡村橋治)			ソーシャルワーク実践Ⅰ(渡辺朝子)				
25	金	発達心理学(久保義和)					ソーシャルワーク実践Ⅱ(山崎晴彦)				
26	土	精神障害と家族(平野 直)									
27	日										
28	月	心身症(原田雅典)					訪問活動のすすめ方(村田美津子)				
29	火	ソーシャルワーク理論Ⅰ(坪上 宏)					ソーシャルワーク理論Ⅱ(上原千寿子)				
30	水	病 院 実 習									
31	木	関 連 施 設 実 習									



月日	曜日	9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:45	16:15	17:00	
8/1	金	保 健 所 実 習									
2	土	事 例 検 討									
3	日										
4	月	病 院 実 習									
5	火	病 院 実 習									
6	水	病 院 実 習									
7	木	関 連 施 設 実 習									
8	金	保 健 所 実 習									
9	土	保健所実習(反省会)									
10	日										
11	月	保健所における地域精神衛生活動 (藤尾昭定)				グループワーク技術(杉野健二)					
12	火	職場の精神衛生(藤尾昭定)				グループワーク技術(杉野健二)					
13	水	病 院 実 習				器質性精神病 (岡野慎治)		事例検討			
14	木	事 例 検 討									
15	金	老人福祉 (上村俊明)		事例検討			反省会		閉講式		

※実習については、8:30～17:00までとする。

### 3 広報普及

#### (1) 広報普及について

複雑、多様化する社会を反映し、こころの不健康に陥る人が増えつつあることは、社会問題としてクローズアップされている。

特に精神衛生の面を含めて、普及啓蒙が重要な課題と思われるが、積極的取り組みに困難な部分が多い。

昭和61年度は開設初年度でもあり、各種の講演会、座談会、連絡会議等からの講師派遣依頼には可能な限り対応し、又、ポスター、リーフレット、ラジオ、テレビ、新聞等を通して広く県民にアピールを図った。

⑫ 講演会(当所 企画主催)

月 日	名 称	内 容	対 象	場 所
昭和62年 2月 5日	精神保健講座	講演「思春期と精神障害」 三重大学医学部助教授 井上 桂 精神保健相談コーナー	一般市民 精神障害者家族会会員 約300名	四日市市庁舎 大会議室
3月 3日	こころの健康づくり教室	講演「魂と子」 岡崎女子短期大学教授 長沢昌史 講演「思春期、今」(若い島症候群) 名古屋市立大学文学部助教授 清水野之	保健所、福祉、障害、市町団当者 一般住民 約150名	精神障害者大会議室

⑬ 他機関から依頼の講演会、座談会、講義、連絡会議

月 日	名 称	内 容	対 象	場 所	主 催	担 当
昭和61年 6月18日	青少年相談関係機関協議員研 修会	三重県こころの健康センターの業務内容	福祉、児童、警察、教育、労働局等担 当者 約130名	県庁大会議室 大会議室	三重県青少年対策推 進本部	保 健 員
6月19日	三重県精神衛生協議会理事会	三重県こころの健康センターの業務内容	理事、理事当者 約20名	政庁第4会議室	三重県精神衛生協議 会	医 師
6月24日	介護110番連絡会議	三重県こころの健康センターの業務内容	設置特別介護老人ホーム建設長 関係当者 約25名	勤労者福祉会第4会議室	県福祉老人福祉課	医師、看護婦
7月 1日	三重地域保健対策協議会委員 会	三重県こころの健康センターの業務内容	委員、理事当者 約20名	勤労者福祉会第4会議室	三重県地域保健対策推 進委員会	医 師
7月 7日	県立津田大学	三重県こころの健康センターの業務内容 こころの健康について	一般住民 約200名	県庁大会議室	県保健福祉部保健予 防課	医 師
8月 5日	県、市、福祉社会の若中協議会若中 (ケースワーカー)研修会	精神障害者の救し方	県、市福祉事務所中核課課長 (ケースワーカー) 約100名	県庁大会議室	県福祉部社会課	医 師
9月10日	中部管区医師会警察本部 厚生課長会議	精神科検定医について	中部管区警察本部厚生課長、市町村 警察本部警察官当者 約15名	あさあけ会館	警察庁 中部管区警察官	医 師
11月 6日	県庁福祉プロック保健婦研修 会	シンポジウム 「こころの健康づくりへの取組み」	県庁保健婦研修所、市町村保健婦 母子保健指導員、市町村 福祉事務所当者 約195名	県庁研習会館	県保健福祉部保健予 防課	医 師
12月 2日	三重県母子看護婦福祉協議会 連合会	講演「精神障害者と人間の一生」	母子看護婦指導員、市町村 福祉事務所当者 約250名	県庁保健センター 和風別館	三重県母子看護婦福 祉連合会	医 師
12月 9日	保健婦研修会	講演「精神障害と保健婦活動」	保健所、市町村保健婦 約50名	総合保健センター	県保健福祉部保健予 防課	医 師
12月20日	保健所医師協議会	講演「三重県の精神衛生」 「最新の健康情報の精神科衛生」	保健所医師 約15名	県庁大会 第13会議室	保健所医師協議会	医 師
昭和62年 2月12日	中部地区青少年相談関係機関 連絡会議	座談会における「いじめ」等青少年の問題 行動に関する対応について	青少年相談関係機関担当 約50名	県庁大会 第7会議室	岐阜地方福祉局	医 師
2月18日	中部保健婦研修会	講演「地域における精神衛生のすめかた」 講演「青少年問題と青少年の心の悩みや 不安について」	保健所中核課保健婦 約50名 河津町社会教育、青少年関係団体 小、中学校校長 約200名	総合保健センター 河津町中核課	県保健福祉部保健予 防課	医 師
3月26日	河津町青少年問題協議会			河津町中核課	河津町	医 師

## (4) マスメディアを利用した広報啓発(テレビ、ラジオ、新聞等)

月 日	媒 体	内 容	担 当
昭和61年 4月16日	伊勢新聞 朝刊	こころの健康センターの開設	
4月16日	朝日新聞 朝刊	こころの健康センターの開設	
5月 1日	中口新聞 朝刊	こころの健康センターの開設	
5月 2日	毎日新聞 朝刊	こころの健康センターの開設	
5月19日	NHK津放送局(テレビ) 「くらしのガイドみえ」	こころの健康センターの紹介 こころの健康について	医 師
5月26日	NHK津放送局(テレビ) 「くらしのガイドみえ」	こころの健康センターの紹介 こころの健康について	医 師
8月16日	朝日新聞 朝刊	こころの健康センター開設後 3ヶ月の相談概要について	
8月21日	毎日新聞 朝刊	こころの健康センター開設後 3ヶ月の相談概要について	
8月30日	三重県中勢福祉事務所広報誌 「ライフ」	「こころの健康センターより」	依頼により医師原稿 提出
9月 2日	NHK津放送局(テレビ) 「今日のレポート」	こころの健康センター開設後 3ヶ月の相談概要について	医 師
9月 6日	中部読売新聞 朝刊	こころの健康センター開設後 3ヶ月の相談概要について	
9月15日	FM三重 (ラジオ) 「ジャストナウ ミエ」	こころの健康センター開設後 3ヶ月の相談概要について	医 師
12月28日	東海ラジオ 「三重県だより」	「上手なお酒を飲むために」	医 師
昭和62年 3月 1日	東海ラジオ 「三重県だより」	「こころの健康づくり」 (心身症について)	医 師
3月16日	FM三重 (ラジオ) 「ジャストナウ ミエ」	「こころの健康づくり」 (中年期のこころの病について)	アナウンサー原稿読 み 医師原稿提出

(5) 印刷物による広報啓発

主な配付先 県機関（県庁各課、保健所等）

市町村

福祉関係（福祉事務所、児童相談所等）

教育関係（教育委員会、教育事務所、学校等）

商工労働関係（商工会議所、商工会等）

警察（少年課、防犯課）

医療機関（県立病院、精神科神経科を有する病院）

関係団体（精神障害者家族会、断酒会等）

開設広報ポスター 900枚

開設広報リーフレット 7,000枚

テレフォン相談開設ポスター 3,000枚

センターだより「こころの健康№1」 500部（10月発行）

「こころの健康№2」1,000部（3月発行）

(6) 精神保健講座

精神保健講座プログラム

9:40~	受付
10:20~10:30	開会・挨拶
10:30~13:00	講演 「思春期と精神障害」 三重大学医学部助教授 井上 桂
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~15:00	精神保健相談コーナー 相談担当者 三重大学医学部助教授 井上 桂 四日市保健所長 三重県こころのセンター所長 精神衛生相談員
15:00	閉会

## 講演 「思春期と精神障害」

講師 三重大学医学部助教授 井上 桂

1. 人生の曲り角  
精神障害の好発時期
2. 年寄りと子供  
生殖能力と自我意識
3. むずかしい年頃  
精神分裂病と思春期危機
4. 男と女  
対人恐怖と思春期やせ症
5. やすらぎの場所  
思春期と家族

## 4 精神衛生相談

### (1) 相談事業

「こころのテレフォン相談」、「こころの健康相談」（来所相談）、「酒害相談」を行っている。

前者には専任の電話相談員2名が配置され、月曜日から金曜日の毎日午前10時から午後4時まで相談に応じた。時間外相談に対しては、留守録を利用し、必要な場合は翌日センターから連絡をとることにした。

後者には、精神科医師、看護婦、保健婦が当たった。一般相談は原則として毎週火・木曜日に、酒害相談は毎月第2水曜日に行ったが、相談の流れとしては電話相談から引き継がれるのが通例であり、適宜応じるのが実状であった。

相談ケースに関しては、適宜カンファレンスを持ち職員全員で議論することにしたが、今後はこの定例会が必要であると思われた。

昭和61年度の相談概要は以下の通りである。

① 相談件数、内容

来所相談の総件数173件で1日あたり1.9件、相談時間は1件短かくて1時間、平均2時間で長い時で3時間に及ぶ事もあった。

テレホン相談の総件数は1,105件で1日あたり4.9件、相談時間は1件平均30分から1時間。

その内容は来所、テレホン相談ともに第1位は在宅患者の日常生活指導に関する精神障害療養上の問題が43.4%と約過半数を占めた。

第2位は、精神障害アフタケアの問題が14.5%、そのニーズは就労、仕事に就きたいが長続きしない、職安に行っても適当な仕事がない等であった。社会復帰の場が少なくニーズに応えられていない現状に対応するのに困ったことも多々あった。

第3位は家庭における問題で8.7%嫁、姑の問題から養育しつけ、夫婦生活の人間関係と継承して学べない核家族のあり方に関する事が多かった。

第4位は、身体的な問題5.2%で、胃の手術後うつ病になった、痔の手術から行動が多動になった等、心療内科的な訴えが多かった。

第5位は性についての問題4.8%で、核家族夫婦の性の営みから新婚の性生活、思春期の男女交際、10代の妊娠、老年期の性生活と巾広い層の性に関する相談があった。

相談員も自からの学習及ばず他機関紹介等で対応したこともあった。

② 相談対象者の年齢別、性別

成人91.7%、児童8.3%であった。

成人では20代39.5%、30代20%、40代9.2%、50代以上の順序であった。

働きざかりの20～30代の男子が半数以上と社会復帰、就労問題が深刻である。

男女別では来所相談男子97件で56%、テレホン相談男子65%と男子が7割と圧倒的に多い。

相談区分別 来所相談本人63%、家族33%、テレフォン相談では本人73.4%、家族22%と本人が圧倒的に多いのは電話というメディアが相談者が主体になれる大きな利点であろう。

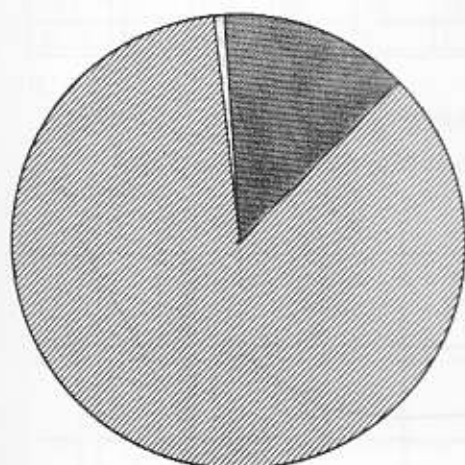
③ 保健所管内別相談件数

南北に長い当県では、中勢に位置するセンターの利用状況は、来所では所在地の津が42%と多く、テレフォン相談は、四日市30%、津22%、とやや、市街地に傾いている。

(2) 相談状況

① 昭和61年度 相談区別件数

(昭和61年5月～昭和62年3月)

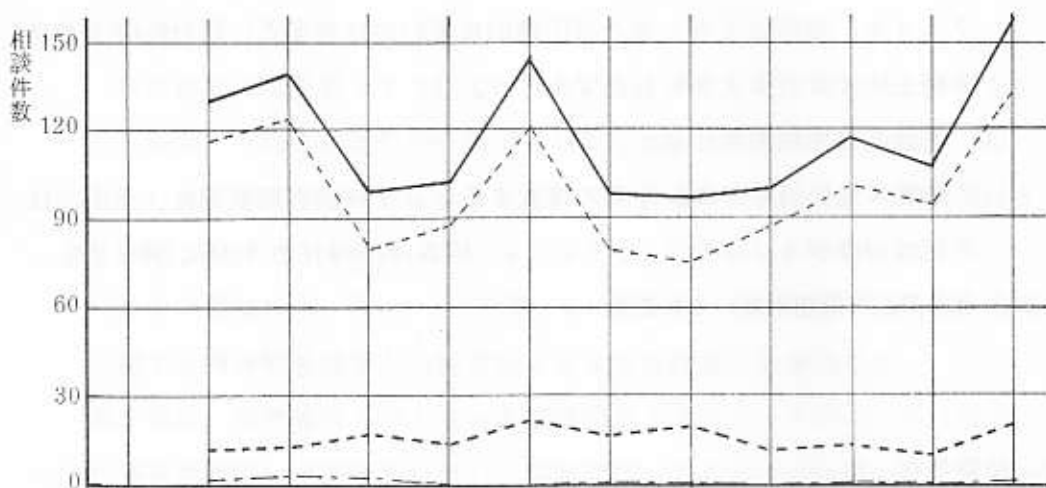


	相談区別件数	%
■ 来所	173	13.4
▨ テレフォン	1,105	85.6
□ 酒害	13	1.0
合計	1,291	100.0

	件数	構成比	備考
こころの健康相談	173件 (113)	13.4% (19.0)	1日あたり 1.9件(9.2日間)
こころのテレフォン相談	1,105 (72)	85.6 (79.3)	1日あたり 4.9件(22.6日間)
酒害相談	13 (10)	1.0 (1.7)	1日あたり 1.2件(1.1日間)
計	1,291 (595)	100.0 (100.0)	

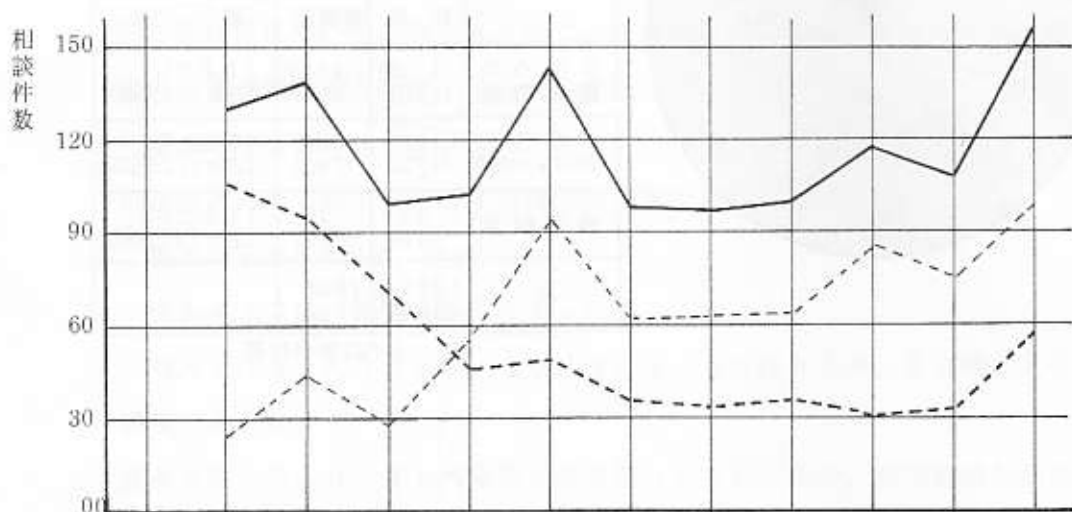
( )内は新規件数

② 昭和61年度 月別相談區別件数  
 (昭和61年5月～昭和62年3月)



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
合計		130	139	99	102	144	98	97	100	117	108	157
来所		12	13	17	14	22	17	20	12	14	11	21
テレフォン		116	123	80	88	122	80	76	88	102	96	134
酒害		2	3	2	0	0	1	1	0	1	1	2

③ 昭和61年度 月別新規再来別相談件数  
 (昭和61年5月～昭和62年3月)



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
合計		130	139	99	102	144	98	97	100	117	108	157
新規		106	95	71	46	49	36	34	36	31	33	58
再来		24	44	28	56	95	62	63	64	86	75	99



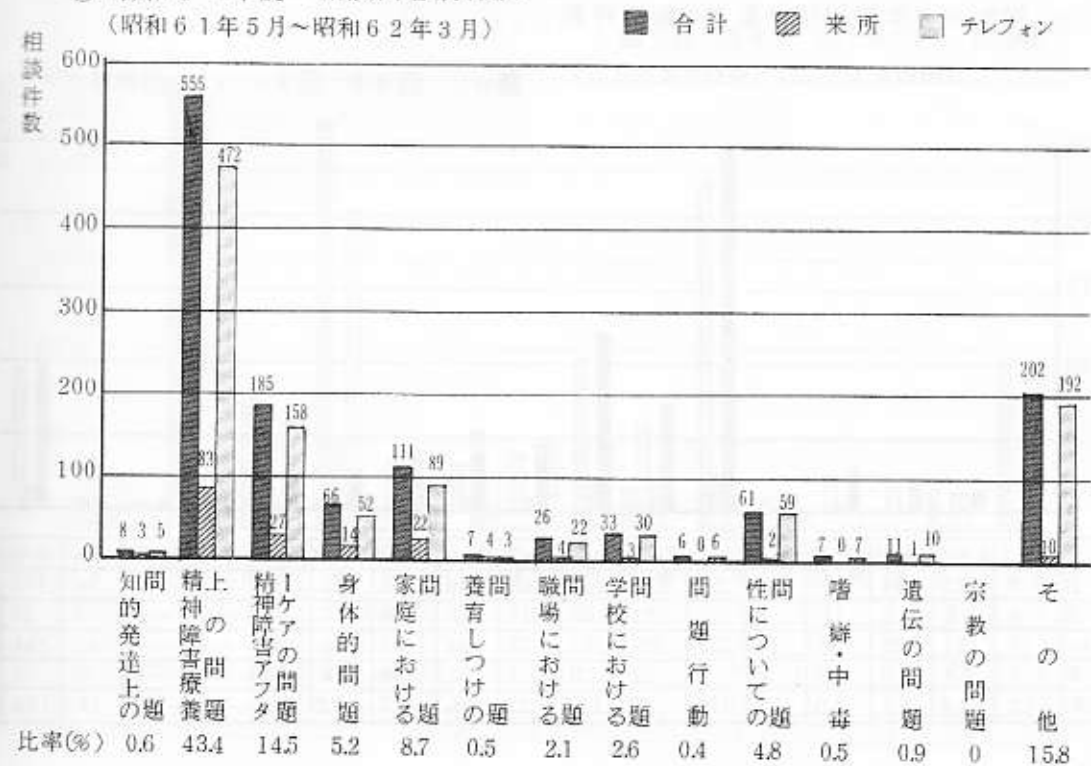
④ 昭和61年度 相談対象者の性別相談件数  
(昭和61年5月～昭和62年3月)



	来所	テレフォン	酒害	合計
男	9.7	71.5	1.2	82.4
女	7.6	39.1	1	46.7
合計	17.3	110.6	1.3	129.1

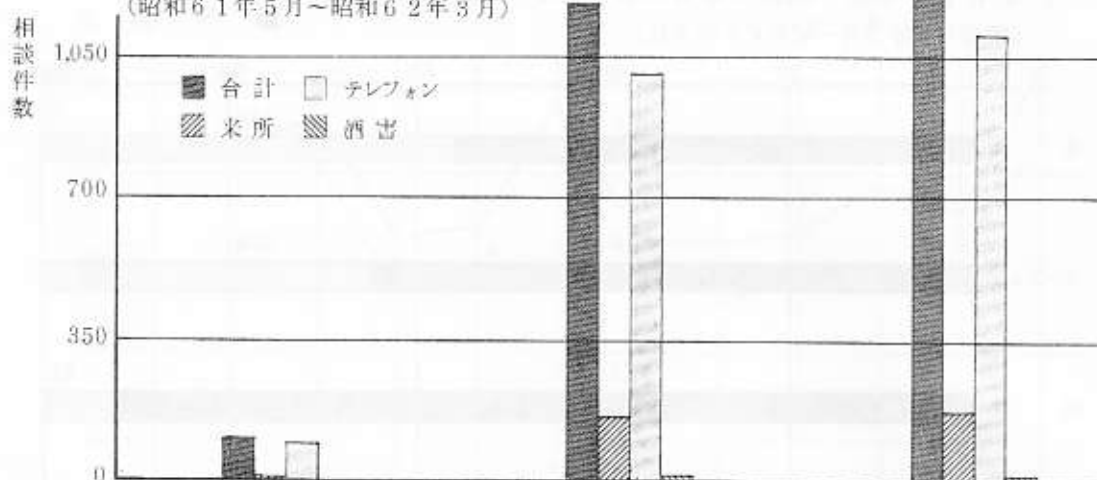
相談件数

⑤ 昭和61年度 相談内容別件数  
(昭和61年5月～昭和62年3月)



⑥ 昭和61年度相談対象者の児童成人別件数

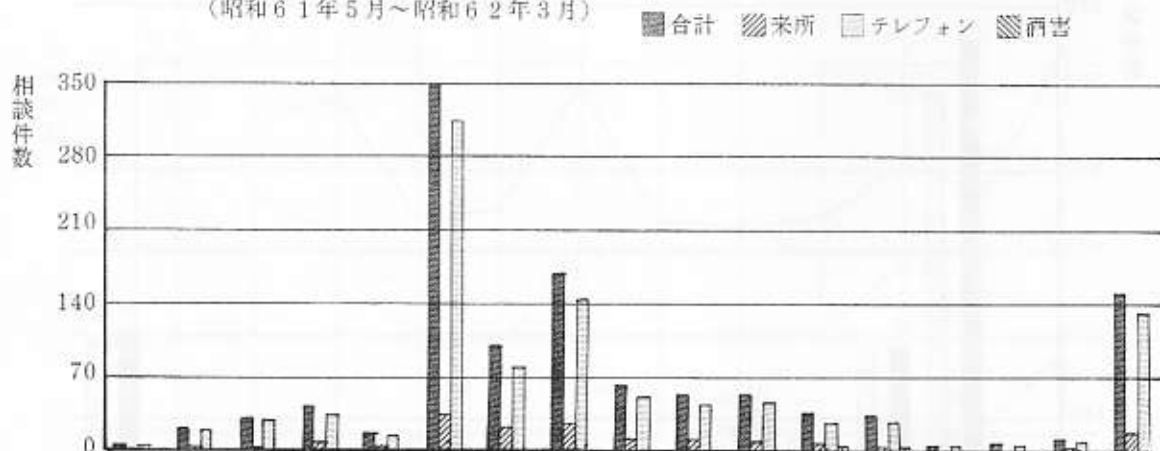
(昭和61年5月～昭和62年3月)



	児童 ~ 17	成人 18~ (不明も含む)	計
合計	107	1,184	1,291
来所	14	159	173
テレフォン	93	1,012	1,105
酒害	0	13	13
比率(%)	8.3	91.7	100.0

⑦ 昭和61年度相談対象者年齢別件数

(昭和61年5月～昭和62年3月)



	0~5	6~12	13~15	16~17	18~19	20~24	25~30	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	64~69	70~	不明
合計	3	23	34	47	17	397	112	190	69	59	61	41	38	4	9	14	173
来所	0	3	2	9	3	39	23	28	11	10	9	7	4	0	1	3	21
テレフォン	3	20	32	38	14	357	89	162	57	48	52	30	30	4	7	11	151
酒害	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	4	4	0	1	0	1
比率(%)	0.2	1.8	2.7	3.6	1.3	30.8	8.7	14.7	5.3	4.6	4.7	3.2	2.9	0.3	0.7	1.1	13.4

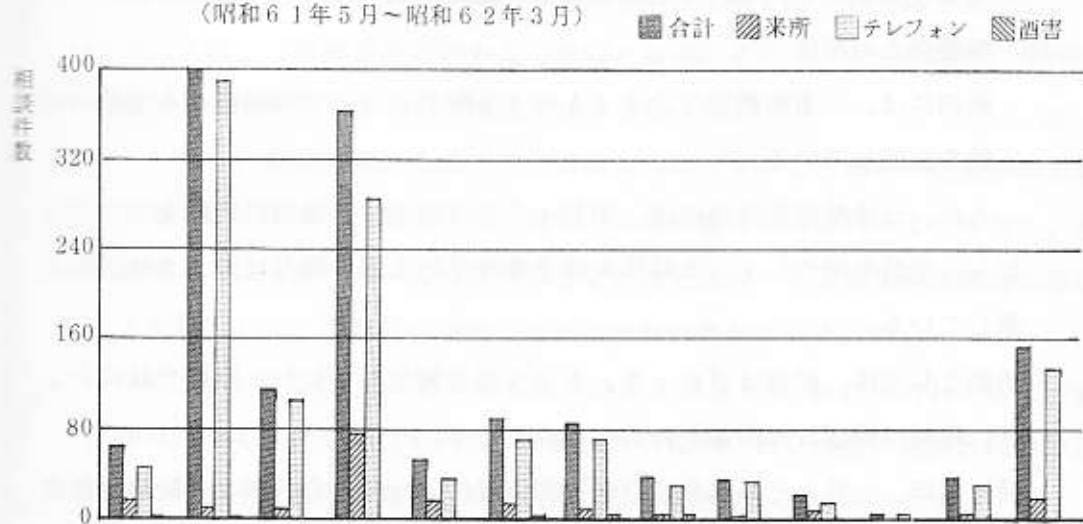
⑧ 昭和61年度 相談者別件数  
(昭和61年5月～昭和62年3月)



	来所	テレフォン	酒害	合計
本人	109	812	3	924
家族	57	246	10	313
その他	7	47	0	54

相談件数

⑨ 昭和61年度保健所管内別相談件数  
(昭和61年5月～昭和62年3月)



	桑名	四日市	鈴鹿	津	久居	松阪	伊勢	志摩	上野	尾鷲	熊野	県外	不明
合計	58	351	103	318	47	79	75	34	32	20	5	33	136
来所	16	9	9	66	15	13	9	4	2	7	0	5	18
テレフォン	41	341	94	250	32	63	63	27	30	13	5	28	118
酒害	1	1	0	2	0	3	3	3	0	0	0	0	0
比率(%)	4.5	27.2	8.0	24.6	3.6	6.1	5.8	2.6	2.5	1.6	0.4	2.6	10.5

## 5 協力組織の育成

### (1) 家族会との関係

三重県精神障害者家族連合会は、昭和43年に発足した。組織の面では病院家族会3カ所、地域家族会2カ所に組織されている。

通常活動としては、各家族の例会、他に年1回の三重県精神障害者大会の開催や、理事会、社会復帰施設の充実などの陳情にも取り組んでいる。

当センターは、本格開設に至っていないため施設や人的な面で十分な支援体制をとるに至っていない。

今年度は、保健所の要請で地域家族会の結成にあたって、準備会の段階から会合に参加し協力、援助をおこなった。

又、家族連合会より活動の方向性とか家族に対する教育、学習について援助を求められる等、センターを人的資源としての活用を期待されていたが、その体制に至っていないため、そのニーズに十分答えることが出来なかった。

今後、いまだに結成されていない地域家族会の取組みや、家族連合会と、各家族会との関係の充実や、本格開設後の事務局体制の確立に取り組みたい。

### (2) 断酒会との関係

県内には、三重断酒新生会とA Aによる断酒会の二つの組織があり独自の活動を展開している。

ことに、三重断酒新生会には、昭和47年に結成され地道に活動をつづけながら、会員を増やし又、本県における酒害予防思想の普及にも大きな役割を果たしている。

活動としては、県内6ブロック、13支部で例会がもたれ、県内全域におよび、地域に根ざした活動がおこなわれている。

又、毎年、会員とその家族及び医療関係者によって、合宿による断酒研修会をおこない、断酒に対する知識の修得と、会員相互の断酒への励し合いをおこなっている。

当センターは、特別な支援体制をおこなっていないが、今後、地域に根ざした活動をさらに発展、充実させるために協力していきたい。

(3) 今後の家族会活動に向けて

三重県精神障害者家族連合会

事務局 長 村上 金之助

家族会の全国的な動向を全国大会での各県連の発言内容から推測すると、在宅精神障害回復者の社会復帰促進のための共同作業所の設置と運営補助についての課題が、大きな関心事であり、大きなウエイトを占めておりました。

又、各県連では共同作業所を通して、地域社会へ向けての保健衛生及び精神保健の啓発活動を行う拠点としても活用されています。

そういった活動をより確かなものにしていくためには、県連の法人化がその基礎固めでもありと考えられています。

こういった全国的な動きは、精神衛生法の改正を契機に家族会のみならず、全国的な地域行政、いわゆる市町村の段階にまで、在宅精神障害者の社会復帰対策についての考え方を問われるようになってきました。

それは、市町村の段階では、法的に医療の分野としてとらえ、その対応を県や医療機関にゆだねて、彼等の相談窓口さえ無い市町村もありました。そこには、一般健常者のかかえる課題と同種のもので、生活保護法、国民年金法でどう対応できるかの検討でしかなかった。

しかし、経済大国日本の生活水準はレベルアップし、同時に福祉水準も追隨していく中で、人類の共存、繁栄、人権の尊重が叫ばれるようになり、身体障害者はもちろんのこと精神障害者の社会復帰、社会参加が国際障害者年を契機として、市町村の段階でも真剣に検討されていました。

こういったことから、精神衛生法の改正が地域行政、特に市町村に及ぼす影響は大きく、他の障害者の社会参加、社会復帰、自立援助の施策と同等の施策こそ公平な施策と考えられるようになってきたからであります。

ほんの一例ですが、京都市では既に2年前より、精神障害者にも小規模授産事業補助として、他の障害者と同等の補助金（1人当り月額3万5千円）を交付しております。

こういった動向については、三重県内の市町村や家族にも大きな影響を与

えるものであり、三家連の指針として検討してまいりたいと思っております。

## 6 こころの健康づくり推進事業

### (1) 目 的

変化の激しい現代社会において、社会生活環境の複雑化に伴い、ライフサイクル、ライフステージ両面にわたり県民各層の間にストレスが増大し、ノイローゼ、うつ病等の精神疾患が増加している。

このような状況の中で、さまざまな欲求不満や不安を体験しつつ、著しい不適応状態に陥ることなく精神の健康を維持し、向上させていくことは決して容易なことではない。

それには、各個人の力だけでなく、社会全体の組織的な努力や活動が不可欠であり、精神保健活動の一側面として今日の大きな課題となってきた。

このような状況を踏まえ、昭和60年度から国においては心の健康づくり推進事業を展開しており、本県においても昭和61年度から基盤整備、普及啓発、生涯にわたる心の健康づくりの3本柱を中心に心の健康づくり推進事業を実施している。

### (2) こころの健康づくり教室

年月日	名 称	内 容	対 象 者 人数
3月3日	こころの健康づくり教室	○講演 「親と子」 講師 岡崎女子短期大学 教授 長沢 哲史 ○講演 「思春期、今」 (青い鳥症候群) 講師 名古屋市立大学医学部 助教授 清水 将之	保健担当者 人 (福祉、教 150 育、保健環 境)一般住 民、小中高校 (PTA)

講演「思春期、今」 講師 名古屋市立大学医学部助教授 清水将之

#### 1 病気ではないが、病的な思春期特有の症状

思春期の問題は、あらゆる領域で注目されるようになってきている。昭和40年代の終わり頃から、病気と診断してよいのかどうか、判断のつき

かねる症例が増えてきた。登校拒否にしても、本人の神経症状態で登校できない場合は、精神医療の治療対象となるが、「殴られるのが怖いから学校へ行きたくない」というケースの場合は、医療対象とは言えない。家庭内暴力も、病気と言えるかどうか難しい。「竹の子族」にしても、現在では流行現象として、世間に受容されているが、おそらく30年前なら、彼らは精神病扱いとされたことだろう。

## II 「近ごろの若い者は・・・」

年長者の若者に対する「今どきの若い者は云々」という小言は、4,000年も前のメソポタミアの粘土板からも発見されているくらいで、人類普遍の嘆きとも言える。かつて、20年くらいの年齢差があって言っていたものが、最近では、3歳しか違わなくても言うくらいに、サイクルは短くなってはいるものの、そのベースとなっているものは、それほど変わっていないのではないだろうか？そのことを否定する人は風俗の部分の移り変わりの激しさに目を奪われているからである。現代の若者の風俗現象を年長者から見ると、「けしからん！」というネガティブな表現しか出てこない。しかし、このような視点では、「なぜこうなるのか？」が見えてこない。「ヤングの立場に立てば、物事がどう見えるか？」という視座が必要である。

## III 現代の若者が置かれている状況

### (a) 先が読めない時代

現代の日本は、急激な産業・経済構造の急激な変化が生じている。かつての基幹産業・花形産業が次々と倒産に追いやられている中、どの業種が将来性があるのか見当もつかない。青少年が将来、何になりたいのかが見失われつつある今、自分の将来に対し、不安を抱くのは当然のことである。

### (b) モラトリアム期間の延長

大人社会は、若者が自我(アイデンティティ)を獲得するまでの間、社会的責任を猶予してきたが、その期間がしだいに延びてきている。



(c) 教育制度の欠陥

学校の問題を抜きにして、思春期の問題は考えられない。日本の教育現場は、荒廃しており、「知能は高くても教養度は低い」と世界的な批判を浴びている。我が国の文部省の教育改革は、いきあたりぼったりで、ヤングの立場に立った視座に欠けている。

(d) 世界的な就職難と大学の粗製乱造

「若者の高学歴化は、ハイテクノロジー推進のための時代の要請であった」と安易に説明づけられているが、このような説明付けは、歴史的には誤りである。アメリカの大学が大幅に増えたのは、1930年代であり、世界恐慌後の仕事のない若いエネルギーの減殺を狙ったものである。日本では、昭和20年代に、「駅弁大学」と皮肉られるほどに、大学が増えているが、この時期も、若年失業者が溢れていた時期であった。現在、大学の粗製乱造を推進しているのは、ヨーロッパ諸国であるが、これまた、若年層の就職難に連動している。「若者にとっての大学は、余剰労働力吸収の場」という見方は、今や、教育社会学の常識となっている。こうした視点は、若者と社会構造の関連を考える上で有効である。

(e) 終身雇用制崩壊の兆し

一生一つの企業で働き、定年を迎えるという図式は、徐々に崩れつつあり、一度就職すれば、一生保証されるというかつての常識は、通用しなくなってきている。このことも若者の不安を募らせる一因となっている。

#### Ⅳ 青い鳥症候群

(a) 青い鳥症候群とは？

病気ではないので、精神病院にはやってこない。ある大企業の嘱託医時代によくみかけた事例で、私が「青い鳥症候群」と名付けた。その後、マスコミで大きく取り上げられ、医学用語事典でも公認される言葉になった。症状の特徴は、次の通りである。

- ① 1～2年で簡単に会社を辞めてしまう肩書エリートに多い。
- ② ぬけぬけと自分の事を「エリート」と自称する幼児的な尊大さがあり、



プライドが高い。

③ 何かにつけて「つまらない仕事しかさせてくれない」「自分のようなエリートが何故こんなつまらない仕事を・・・」等と訴え、組織全体の中の自分の位置が把握出来ない。

④ 協調性がなく、組織の中でうまく適応できない。

(b) 症例

① ある大学院生。知能指数は、異常に高いが、あれかこれかという2進法的思考しかできず、あれでもあるがこれでもあるというグレーの状態の発想が出来ない。個人研究では、優秀な業績を上げるが、共同研究に進むと共同作業になじめず、一ヶ月ともたない。博士課程で行き詰まり、他の大学院に移ったが、そこでも同じであった。

「博士号を取れないのは、おまえのせいだ」と母親にあたり、暴力をふるう。バランスの取れたものの見方ができず、もの知りのわりに、世俗的な常識に全く疎い。

② 東大法学部学生。「教授は自分ばかり指名し、自分をいじめる」と逆恨みし、その大学教授を刃物で刺そうとした。

③ 東大法学部学生。自分が好意を持っている女子学生の前に立ち塞がり、脅迫的に「お茶を飲みに行こう」と誘うが、断られると彼女の背後から石をぶつけ怪我を負わせる。

以上のような大学生は、東大キャンパスでは、例外的な存在ではなくなってきているという。病気とは言えないものの、病的であるということで、この種の若者を総称して、『青い鳥症候群』と名付けたものである。こういう若者は、今のところごく少数だが、ますますこういうタイプの若者を作り出す社会になってきており、裾野は広がってきている。

(c) 「青い鳥症候群」の若者の背景

母親が、無理やり、鋳型にはめ込むような形で子育てをした例に多い。概ね、反抗期を母親に押えこまれている。反抗期は、親から見ると反抗のように映るが、子供にとってみれば、自己主張の発露である。反抗期を歪

められた子供は、健全に育たない。

## V 思春期特有の精神病・神経症について

### ① 思春期やせ症（同無食飲症・同食欲不振症）

症状 食べることの異常（拒食・無カロリー物の大量飲食とおう吐等）  
その結果としてやせた。

特徴 (a) 12～25歳の女子が90%以上

(b) 身体の美的イメージが損なわれ、やせすぎてグロテスクになった自らの姿をぶざまと感じない。

(c) 一般の場合とは逆に、やせればやせるほど活動的になる。

(d) ほぼ100%、無月経になる。

(e) 近年になって増加。女子中高生に多い。

ロンドンの女子学生 300人に1人

日本の女子学生 500人に1人

(f) 自分は食べないくせに、家族の栄養は気にする。料理好きの子が多い。

背景 第二性徴が表れ、女らしく成長することは、周囲の人々にとっては、喜ばしいことととらえるが、本人にとっては、とまどいとして表れる。大人の女性になることに反抗しているものと考えられているが、何故、生理が止まるのか、未だに解っていない。精神状態が安定すると、生理が再開される。

### ② 対人恐怖症

症状 視線恐怖、醜貌恐怖、悪臭恐怖等表れ方はさまざま

2：1の割合で男子に多い。「自分の顔は醜い」と思い込む醜貌恐怖は、8割が男子である。

背景 男女差の理由はよく解っていない。（以下は仮説）

女子 ホルモン分泌に伴い体内から湧いてくる変化→ためらい

男子 男らしさは社会的に獲得してくるもの働く存在としての  
役割意識立ち直りの遅い登校拒否ケースは、圧倒的に男子

が多い。

#### Ⅳ 思春期危機への対応策

- ① 家庭内の子育ての在り方を再点検すること。  
親子関係のみならず、夫婦関係の部分を含めての再検討が必要である。
- ② 教育問題・学校問題に関心を持ちつづけること  
自分の子供の教育が終わったから、他人事にしてしまいがちである。
- ③ 幼児期の子育ては、肉体労働、思春期の子育ては、精神労働と心得、思春期に親が苦勞するのが当たり前で、苦勞がない場合の方がおかしいと考えること。
- ④ 思春期の子育て時期は、親と子の実存を賭けた戦いであると覚悟すること。
- ⑤ 過干渉によって、親の安心を得てはいけない。子供の秘密はいちいちおろおろせず、壁になりじっと立っていてやることが重要である。思春期の心の揺れを黙って見守ってあげれば、5～6年後には、安定し果立っていくものである。
- ⑥ 子が親ばなれするのと親が子ばなれするのを連動させること。末子が親ばなれするころには、その両親は、初老期にさしかかっている。ここをうまく乗り切るか否かが、落ち着いた老後を過ごすか否かの岐路である。

講演「親と子」 講師 岡崎女子短期大学教授 長沢啓史

#### 1 親と子の縁の不思議さ

自分は、寺の息子であり、僧侶になるための勉強を強いられていたが、親のあとを継ぎたくないばかりに、大学に進学して家を飛び出した。824年、自分たちの手で、小頭症の子供ター坊を育てている万引少年グループに出会い、カウンセリングの道に踏み込むことになった。そのころ担当した子供たちはすでに50代に達しており、そのうちの一人は、政治家になっていて、議員一期めからずっと、精神薄弱児者対策委員会委員長をしてい

る。ター坊との出会いが、彼に今の仕事に駆り立てるきっかけとなっている。かつて、あんなに寺を継ぐのが厭だったのに、故郷に帰ってみると、いつの間にか寺を継ぎたくなり、結局、継ぐことになってしまった。

かつて、寺を継ぐのがいやで家を飛び出した私が、自分の息子にこの寺を継いで欲しいと思うはめになるのだから、皮肉なものである。私の長男は、最近まで寺を継ぐ気などさらさら無かったようであるが、先天性心疾患の次女の闘病とその死、その後の闘病記録の執筆・出版を通して、急に僧侶になりたいと言いだしている。

子が親のあとを継ぐということを強制できない時代になってきているが、それでも親と子は不思議な縁で結ばれているように感じる。自分自身の親子関係を振り返ってみても、つくづく思うことだが、ことほどこように親と子というのは、一筋縄ではいかないものなのである。

## Ⅱ 父権制度の崩壊と親子関係の変化

「昔の父親は、厳しかった」、「体罰も日常茶飯事であった」「父親というのは、昔のように、怖い存在でなくてはならない」という意見を述べる人が増えている。安易に古典的な父親像を美化する人は、社会背景の違いというものが見えていないのである。

戦前の男というものは、父権制度によって守られていた。家長として強大な権力を与えられていたので、強くない父親でも強く、怖くない父親でも怖くみえただけのことである。このところを混同しては、いけない。

そもそも、日本人は農耕民族であり。農耕民族というのは、服従・受容に長けている。父権制度に守られた昔の父親は、物分かりが悪く、しばしば、理不尽であった。それに対して、母親が受容的で、父親の物分かりの悪さをカバーしてきた。

父権制度が崩壊して、現在では、物分かりのいい親が大半になっている。物分かりが良すぎて、子供に対する妥協が多くなっている。PTAの会合は、母親ばかりで、「あまりに教育的な」存在になっている。父親も物分かりがよくなりすぎて、親子の緊張関係が保てなくなっている。親と子と

というのは、分かりあえないところで、対決し、燃焼しあわないといけないものなのである。

### Ⅲ カウンセリングの合理性と非合理性

カウンセラーは、相手から本当のことを聞きたいと思う。しかし、相手にとっては、本当のことというのは、言わないし、言えないものなのである。カウンセリングには、相談室、カウンセリング室といったformalな世界と、道端、校庭といったいつでもどこでも話し合える場＝informalな世界の両方が必要である。人間の内面には、理屈ぬきである世界と理屈で律することができる世界との両面がある。カウンセラーは、人間科学、心理学の基礎理論をしっかりと身につけた上で、時には、理屈ぬきの裸で相手に接することができるという両面性が求められる。

今、「いのちの電話」等を始めとして、カウンセリングは、素人の時代はなってきた。このことは、専門家が、過信しマンネリに陥ってしまったことと無縁ではない。教師の子ほど、問題が多かったり、高度の教育を受けた親ほど、非教育的な意識を持っている傾向が見られるが、実に象徴的である。

### Ⅳ 親子関係の在り方

親子関係には、非合理的な関係が重要である。親子関係は、理屈では律することのできないどうにもならないもの、非合理的なものを前提とする必要がある。

昔は、どの家庭も子だくさんで、子育ては戦場であった。親の実感としては、知らない間に大きくなっていったというのが、本音であっただろう。

昔は学生時代「よく遊びよく遊び」で、社会へ出てからが勉強という発想が強かったが、大学に入るまで「よく学びよく学び」、大学に入ってしまうえば、こっちのものという意識が強い。10年も英語を学びながら、簡単な英会話ひとつ身につかないというのが、今の高等教育の現実である。「金もったいないからそんな大学には、行くな！」と言える親は、ほとんどいない。親は子に対して物分かりが良すぎてはいけない。親が子

に対し、自らの生きざまを教え示し、対決していく姿勢こそが、必要な  
のである。

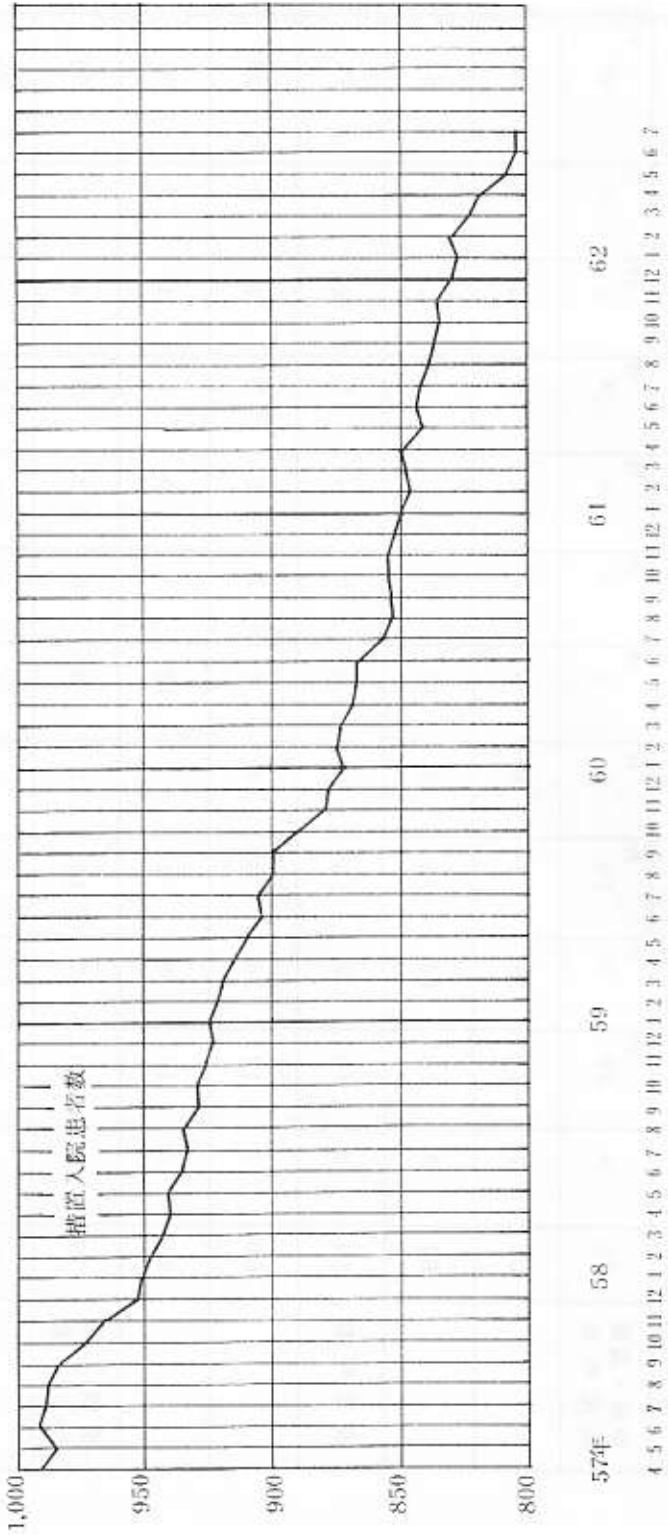
### 第3編 資料

#### 精神障害者の現状

(1) 措置入院患者状況（S59～61）

区分	保健所		桑名	四日市	鈴鹿	津	久居	松阪	伊勢	志摩	上野	尾鷲	熊野	合計
	年度	件数												
中請・通報届出件数	59		6	20	9	16	4	5	9	6	9	6	6	96
	60		7	18	18	7	6	5	10	3	8	4	5	91
	61		6	18	10	3	3	15	17	0	5	1	6	84
鑑定件数	59		5	16	8	12	2	4	8	4	5	6	6	76
	60		7	12	16	6	4	2	7	2	5	3	5	69
	61		5	16	8	2	3	10	11	0	3	1	3	62
措置入院件数	59		3	16	7	11	2	2	6	3	2	4	3	59
	60		6	9	14	2	3	1	5	1	2	2	4	49
	61		5	12	6	1	3	5	7	0	2	1	3	45

(2) 措置入院患者の推移（S57.4～62.7現在）

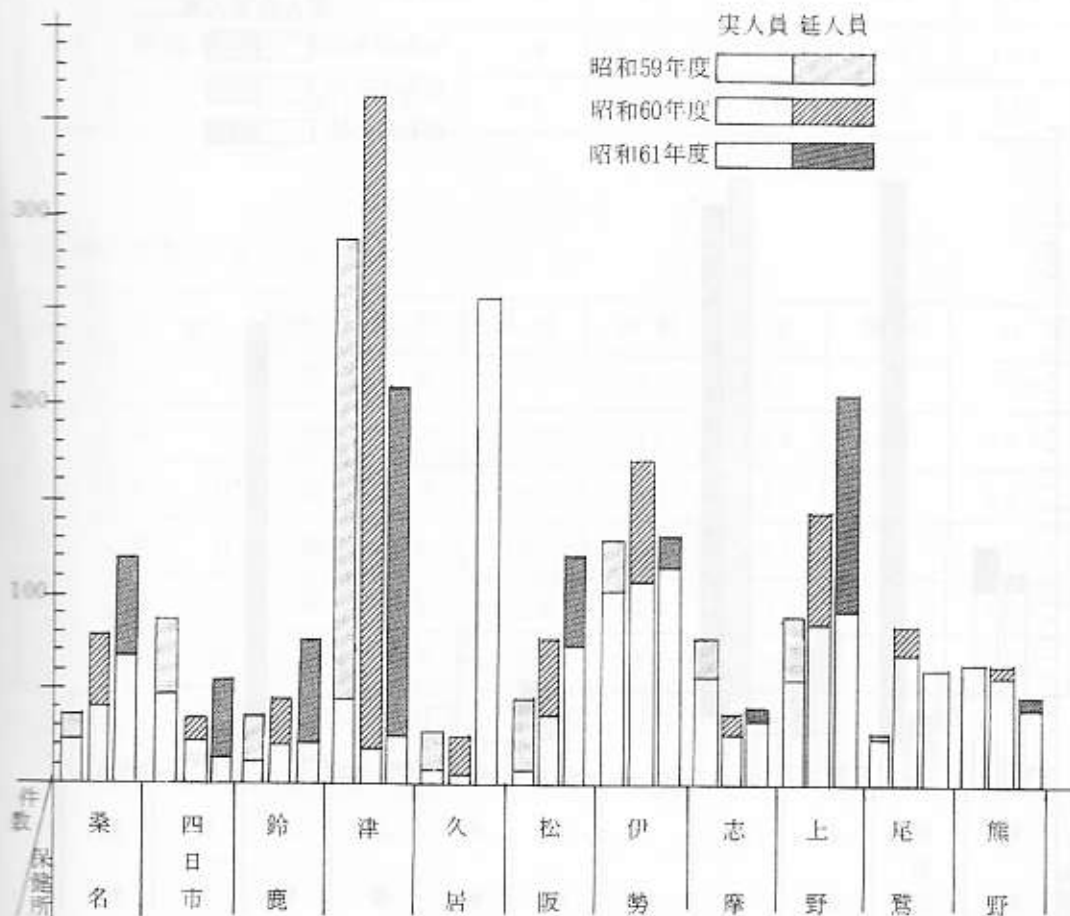




③ 保健所における精神障害者の訪問指導、相談活動

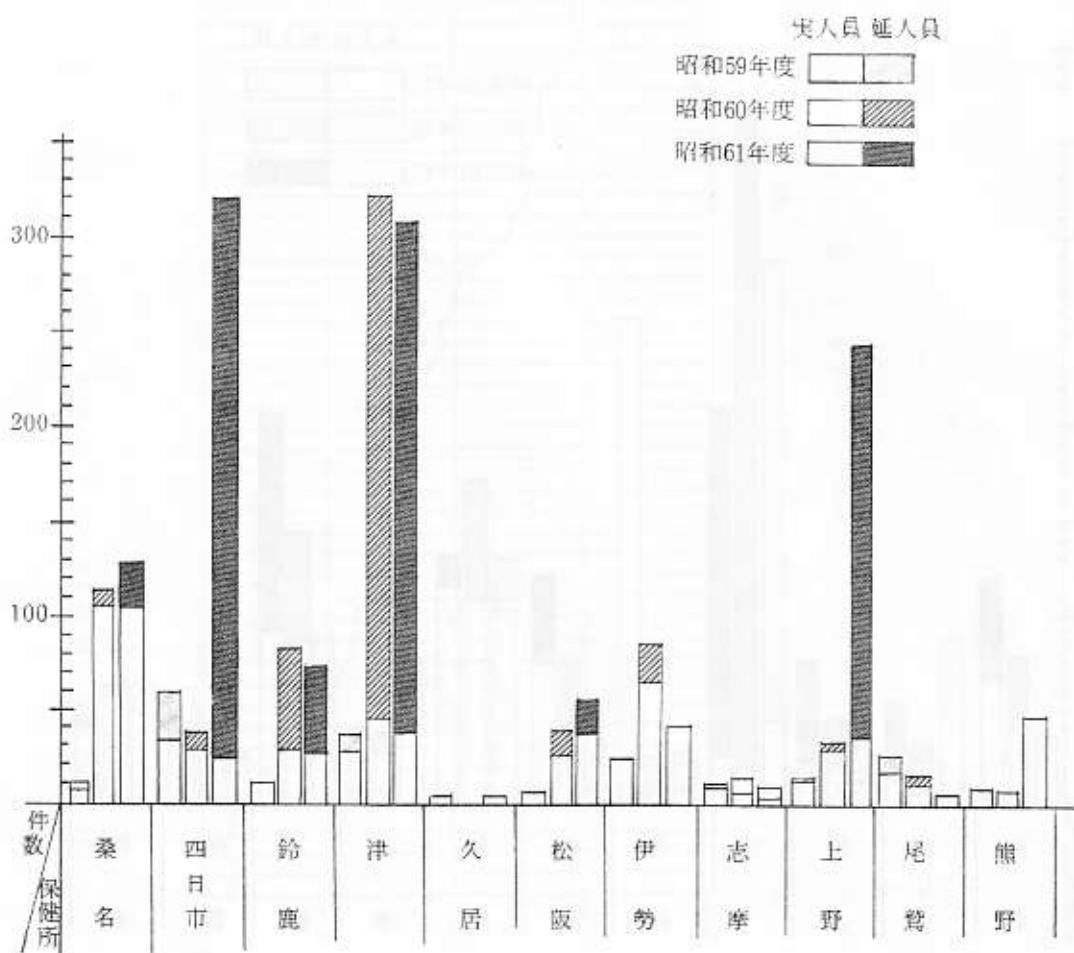
訪問指導件数（昭和59～61年度）

		桑名	四日市	鈴鹿	津	久居	松阪	伊勢	志摩	上野	尾鷲	熊野	合計
59	実人員	22	47	11	46	6	7	101	56	55	21	61	433
	延人員	35	85	35	288	27	45	130	76	87	24	61	893
60	実人員	40	22	19	19	4	36	105	24	83	69	54	475
	延人員	79	34	44	362	23	73	170	36	141	82	60	1,104
61	実人員	67	12	20	24	253	72	112	32	89	60	38	779
	延人員	120	56	77	208	253	120	131	38	208	60	44	1,315



和談件数（昭和59～61年度）

		桑名	四日市	鈴鹿	津	久居	松阪	伊勢	志摩	上野	尾鷲	熊野	合計
59	実人員	4	31	10	27	4	6	22	8	12	16	9	149
	延人員	6	59	11	33	4	6	22	10	13	23	9	196
60	実人員	106	26	28	44	0	27	64	5	25	9	6	340
	延人員	111	37	81	320	0	38	84	12	30	13	7	733
61	実人員	105	22	26	38	3	37	40	3	34	6	47	361
	延人員	129	319	73	308	3	56	41	8	241	6	47	1,231



④ 保健所における老人精神衛生訪問相談活動

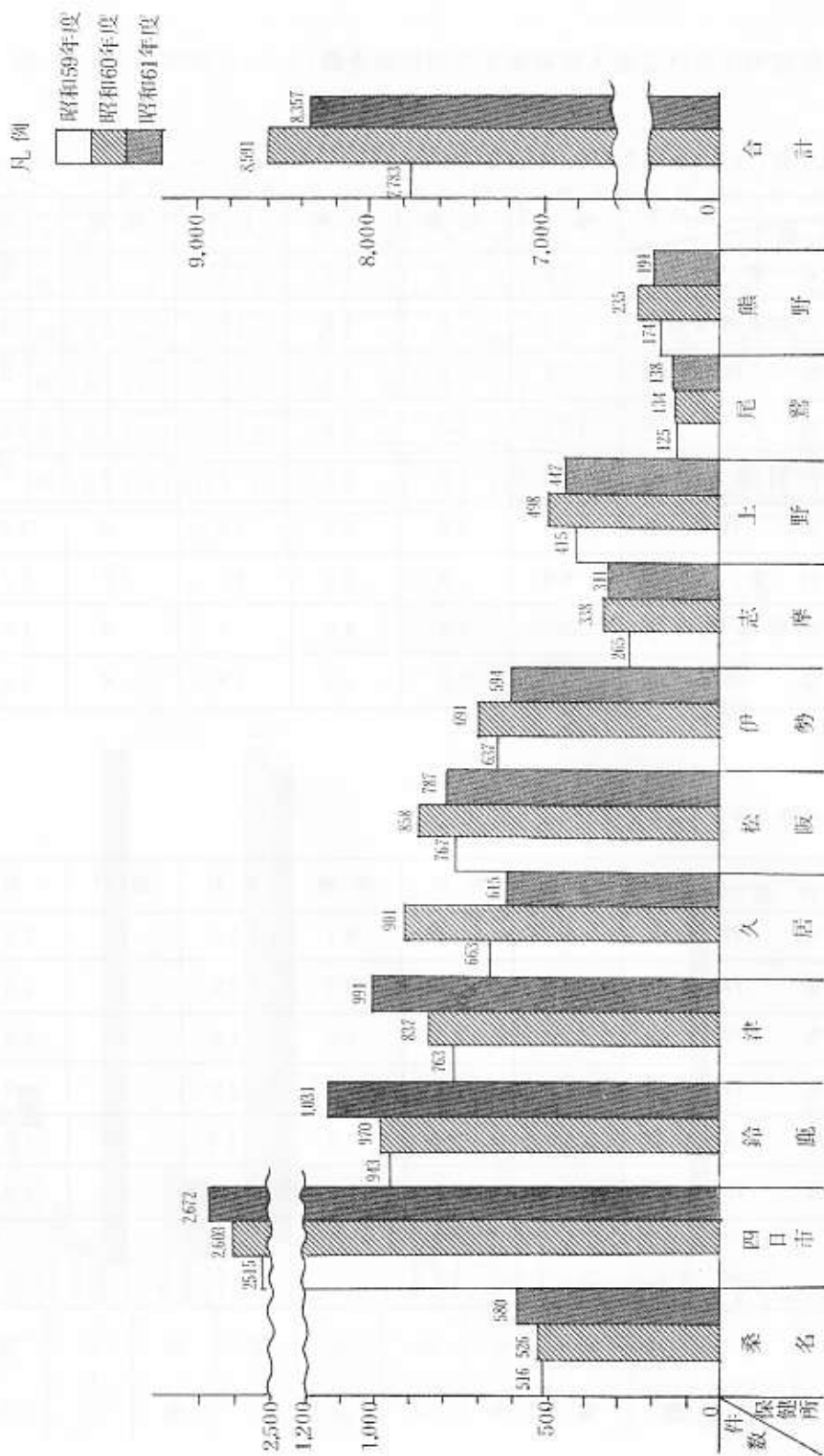
訪問件数(559~61年)

年度	保健所 件数	桑名	松阪	伊勢	上野	熊野	計
59	対象人員	10	0	11	21	0	42
	訪問指導実件数	3	0	12	15	0	30
	延件数	5	0	12	17	0	34
60	対象人員	127	67	33	16	0	243
	訪問指導件数	18	40	25	7	0	90
	延件数	19	90	28	18	0	155
61	対象人員	89	9	30	10	37	175
	訪問指導件数	27	29	40	7	6	109
	延件数	37	36	40	16	6	135

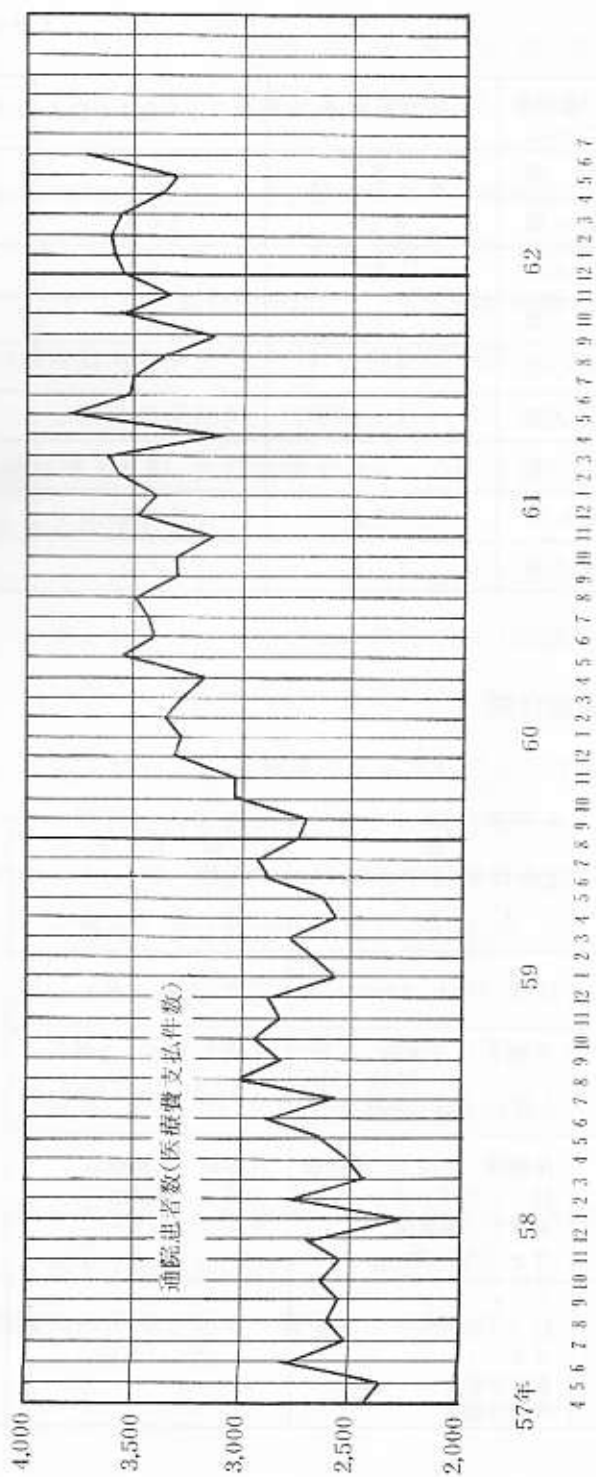
相談件数(559~61年)

年度	保健所 件数	桑名	松阪	伊勢	上野	熊野	計
59	実件数	19	0	91	110	0	220
	延件数	23	0	99	122	0	244
60	実件数	127	95	45	19	0	286
	延件数	132	200	46	29	0	407
61	実件数	89	10	18	10	39	166
	延件数	90	21	18	12	39	180

(5) 精神障害者通院医療費公費負担承認件数（昭和59～61年度）



精神障害者通院医療費支出負担件数の推移（57.4～62.7）



## (6) 保健所における精神障害者社会復帰訓練事業(デイ、ケア)

(S59~61年)

年度	人数	保健所		
		津(ひろば)	四日市(金よう会)	上野(ひまわりの会)
59	回数	21	29	12
	参加者延人員	329	264	88
	一回あたりの人数	15.6	9.1	7
60	回数	24	27	12
	参加者延人員	268	289	88
	一回あたりの人数	11.1	10.7	7
61	回数	26	28	24
	参加者延人員	308	319	146
	一回あたりの人数	11.8	11.3	6

## デイ、ケア実施状況

## 保健所

名称	津	四日市	上野
	ひろば	金よう会	ひまわりの会
開設年月日	5.1.4	5.3.4	5.6.8
実施日時間	(第2.4)水曜 9:30~15:00 (第3)水曜 13:30~15:30	(第1.3.5)金曜 9:30~15:00	(第1.3)金曜 10:00~15:00
スタッフ	保健婦 心理士 事務職員 レクワーカー 栄養士 嘱託医 ケースワーカー	保健婦 事務職員 栄養士 嘱託医 ケースワーカー	保健婦 事務職員 栄養士 ケースワーカー
プログラム	ミーティング 料理 スポーツ 創作活動 所外活動	左 同	左 同 他に作業

(7) 保健所における精神保健活動について

三重県保健所長会会長

三重県久居保健所長 杉村 巧平

精神衛生法が昭和 25 年に施行されて、保健所業務に精神衛生業務が取入れられて以来 30 数年たちましたが、当初は殆んど入退院についての事務業務が多かった。昭和 40 年の改正により訪問指導業務が始って、多少地域保健的な活動を開始した。

この間、数回の精神衛生実態調査が行われ保健所も関与した。又、外国に比してベッド数が少いと云われて来たが、入院施設数、ベット数も次第に増加して、三重県では 20 施設に増えたが、まだ定数オーバーの施設も多く入院斡旋に困難をきたすことがままある現状である。

精神衛生については、他の疾病に比して地域保健的な対応の仕方が難しく、又、その受け皿としての資源制度等が十分でない現状の中で地域精神衛生の担い手としての保健所の活動が期待されて来たが、当県ではその中心となるべき P S W

(精神科ソーシャルワーカー)が保健所に配属されておらず、技術的援助をすべき精神衛生センターの開設も大変遅れていたが、精神衛生センターは昭和 61 年 5 月にやっと開設された。又、最近では精神衛生相談員の養成も進み、次第に訪問活動も活発になって来たことは喜ばしいことである。

津、四日市、上野では社会復帰事業(デイケア)が行われて来たが、今後は全保健所に拡大すると共に、その内容を一層充実強化していく必要があり、老人性痴呆、アルコール対策等、保健所のかかわる範囲は益々増えていくだろうと思われる。

今回、精神衛生法が改正されて精神保健法に衣がえし、保健所における精神衛生業務の比重が益々増大する時期にあたり、貴センターとの協力態勢を確立して、三重県における地域精神保健活動を一層強力に展開していくことを念願する。

## 第4編 精神保健社会資源

### (1) 精神病院

病 院 名	病院長名	住 所	TEL
医療法人橋会 多 度 病 院	福井 康治	〒511-01 桑名郡多度町大字柚井1672	059448-2171
特定医療法人北勢会 北 勢 病 院	堤 盛合	〒511-04 員弁郡北勢町麻生田1525	059472-2611
医療法人康誠会 東 員 病 院	宮内 康雄	〒511-02 員弁郡東員町穴太2400	059476-2345
医療法人 山 本 大 仲 病 院	森谷 徹	〒511-02 員弁郡東員町穴太2000	059476-5511
医療法人総会 水 沢 病 院	中川 信哉	〒510-11 四日市市水沢町638-3	059329-3111
医療法人居人会 四 日 市 日 永 病 院	藤田 貞雄	〒510 四日市市日永5039	0593-45-2356
三重県厚生農業協同組合 連合会 中勢総合病院	金丸 正泰	〒513 鈴鹿市神戸矢田部町313	0593-82-1311
三重県厚生農業協同組合 連合会 鈴鹿厚生病院	桜井慎一郎	〒510-02 鈴鹿市岸岡町580-2	0593-82-1401
三重大学医学部 附 属 病 院	水本 龍二	〒514 津市江戸橋二丁目174	0592-32-1111
県立高茶屋病院	若生 年久	〒514 津市城山1-12-1	0592-34-2125
国立療養所 神 原 病 院	諏訪 尚史	〒514-12 久居市神原町777	05925-2-0211
医療法人 久 居 病 院	田中 雅文	〒514-11 久居市戸本町5043	05925-5-2986
私立松阪厚生病院	斎藤 精一	〒515 松阪市久保町	0598-29-1311
私立南勢病院	春本 龍郎	〒515 松阪市山室町2275	0598-29-1721
市立伊勢総合病院	関口 和夫	〒516 伊勢市楠部町316-2	0596-23-5111
県立志摩病院	村田 佐門	〒517-05 志摩郡阿児町鶴方1257	05994-3-0501
財団法人信貴山病院分院 上 野 病 院	稲森 次郎	〒518 上野市緑ヶ丘本町1606	0595-21-5010
医療法人紀南会 熊 野 病 院	好村 貞夫	〒519-51 熊野市久生屋町868	05978-9-2711
井 田 川 病 院	竹内 義次	〒519 鈴鹿市中富田町字中谷	0593-78-7107
医療法人 岩 崎 第 二 病 院	藤井 洋男	〒514-01 津市一身田町754	0592-32-2316
私立津西病院	青山 益雄	〒514-01 津市一身田大吉曾1734-10	0592-32-2097
県立小児心療センター あすなる学園	稲垣 卓	〒514 津市城山1-12-3	0592-34-8700



## (2) 保健所

機関名	所在地	電話番号	市郡	町村	開始年月日 ディケア開始
桑名保健所	桑名市中央町 5丁目71	0594 21-6111	桑名市 桑名郡 員弁郡	多度町・長島町・木曾岬村 北勢町・員弁町・大安町 東員町・藤原町	昭19.10.1
四日市保健所	四日市市新正 4丁目8番12号	0593 51-4111	四日市市 三重郡	菰野町・積町・朝日町 川越町	昭18.11.10 昭55.4.
鈴鹿保健所	鈴鹿市神戸 8-9-22	0593 82-0191	鈴鹿市 亀山郡 鈴鹿郡	関町	昭19.10.1
津保健所	津市桜橋3丁目 446-34	0592 23-5111	津市 安芸郡	河芸町・芸濃町・美里村 安濃町	昭19.10.1 昭53.4.
久居保健所	久居市新町 930の1	05925 5-3131	久居市 一志郡	香良洲町・一志町・白山町 嬉野町・美杉村・三雲町	昭22.7.21
松阪保健所	松阪市麻町138	0598 52-1111	松阪市 南郡 多気郡	飯南町・飯高町 多気町・明和町・大台町 勢和村・宮川村	昭19.10.1
伊勢保健所	伊勢市勢出町 622	0596 25-1111	伊勢市 度会郡	玉城町・二見町・小俣町 南勢町 南島町・大宮町・紀勢町 御園村・大内山村・度会町	昭19.8.8
上野保健所	上野市丸の内 116	0595 23-8771	上野市 上野郡 河名郡	伊賀町・烏ヶ原村・阿山町 大山田村 青山町	昭13.8.25 昭57.4.
志摩保健所	志摩郡阿児町 碓方3098-9	05994 3-5111	志摩市 志摩郡	浜島町・大王町・志摩町 阿児町・磯部町	昭19.11.1
尾鷲保健所	尾鷲市中井浦 字坂場1161	05972 2-5111	尾鷲市 北牟婁郡	紀伊長島町・海山町	昭19.8.8
熊野保健所	熊野市井戸町 字井土383	05978 5-2158	熊野市 南牟婁郡	御浜町・紀宝町・紀和町 碓敷村	昭19.11.1

## (3) デイ、ケア実施状況

## 病院

病院	国立神原病院	県立高茶屋病院	四日市日永病院
開設年月日	61.6.1 認可	49.10.1 62.8.1 (認可)	52.4.1 58.5.1 (認可)
実施日時間	週3日(月水金) (9:00~15:00)	週5日(月~金) (9:30~15:00)	週6日(月~土) (9:30~15:30)
スタッフ	医師 心理士 作業療法士 看護	医師 ケースワーカー 心理士 作業療法士 保健婦	医師 心理士 作業療法士 ケースワーカー 看護
プログラム	ミーティング 書道 料理 木工 陶芸 手芸 絵画 七宝焼 スポーツ	ミーティング 絵画 料理 スポーツ ワークロ 陶芸 木工	ミーティング 作業 スポーツ 料理 音楽鑑賞

## (4) 精神障害者家族会

名 称	代表者名	事務局所在地	電話番号	結成年月	人員
三重県精神障害者 家 族 連 合 会 (三家連)	中 村 寛	津市城山1丁目12番1号 三重県立高茶屋病院内	0592- 34-2125	昭和 44. 8	680
わかばの会	村 上 金之助	四日市市山分町239	0593- 63-0013	48. 6	150
すずわ会	横 山 宮五郎	鈴鹿市岸岡町 鈴鹿厚生病院内	0593- 84-1401	45. 5	60
いすず会	奥 野 芳 久	津市城山1丁目12番1号 三重県立高茶屋病院内	0592- 34-2125	42. 5	410
のぞみ会	河 本 房太郎	久居市戸木町5043 久居病院内	0592 55-2986	43. 9	30
しぐれ会	小 川 昇	桑名市新矢田2丁目58番地	0594- 21-1074	51.10	30
ときの会	若 林 三 郎	津市城山3丁目 市営西城山住宅 高 橋 たずへ方	0592- 34-8049	45.10	50
ひまわりの会	小 川 巖 雄	上野市申坂650-66	0595- 21-6344	62. 7	20
まつの会	林 功 美	松阪市殿町上丸の内1363	0598- 21-3567	62. 9	20



## (6) 福祉関係機関

## 県福祉事務所

番号	名称	所在地	電話番号	郵便番号	担当地域
1	北勢福祉事務所	四日市市新正4-21-5	(0593) 51-4111	510	桑名郡、員弁郡、三重郡、鈴鹿郡
2	中勢福祉事務所	津市桜橋3丁目446-34	(0592) 23-5051 (TEL電話)	514	安芸郡、一志郡
3	飯南多気福祉事務所	松阪市高町138	(0598) 52-1111	515	飯南郡、多気郡
4	南勢志摩福祉事務所	伊勢市勢田町622	(0596) 25-1111	516	度会郡、志摩郡
5	伊賀福祉事務所	上野市丸之内116-1	(0595) 21-3111	518	阿山郡、名賀郡
6	紀北福祉事務所	尾鷲市中井部字坂場1161	(05972) 2-5111	519-36	北牟婁郡
7	紀南福祉事務所	熊野市井戸町371	(05978) 9-1111	519-43	南牟婁郡

## 市福祉事務所

番号	名称	所在地	電話番号	郵便番号	担当地域
1	津市社会福祉事務所	津市西丸之内23-1	(0592) 26-1231	514	津市
2	四日市市社会福祉事務所	四日市市諏訪町1-5	(0593) 51-1155	510	四日市市
3	伊勢市厚生福祉事務所	伊勢市岩淵1-7-29	(0596) 23-1111	516	伊勢市
4	松阪市福祉事務所	松阪市殿町1340-1	(0598) 53-4080 (TEL電話)	515	松阪市
5	桑名市社会福祉事務所	桑名市中央町2-37	(0594) 22-5111	511	桑名市
6	上野市社会福祉事務所	上野市丸之内116	(0595) 21-4111	518	上野市

番号	名 称	所 在 地	電 話 番 号	郵便番号	担 当 地 域
7	鈴鹿市社会福祉事務所	鈴鹿市神戸1丁目18-18	(0593) 82-1100	513	鈴鹿市
8	名張市社会福祉事務所	名張市丸之内79	(05956) 3-2111	518-04	名張市
9	尾鷲市社会福祉事務所	尾鷲市中央町10-43	(05972) 2-1111	519-36	尾鷲市
10	亀山市福祉事務所	亀山市本丸町577	(05958) 2-1111	519-01	亀山市
11	鳥羽市福祉事務所	鳥羽市鳥羽3-1-1	(05992) 5-3111	517	鳥羽市
12	熊野市福祉事務所	熊野市井戸町796	(05978) 9-4111	519-43	熊野市
13	久居市社会福祉事務所	久居市東藤跡町246	(05925) 5-3110	514-11	久居市

児童相談所

番号	名 称	所 在 地	電 話 番 号	郵便番号	担 当 地 域
1	北勢児童相談所	四日市市山崎町977の1	(0593) 47-2030	512	桑名市、四日市市、鈴鹿市、亀山市、桑名郡、員弁郡、三重郡、鈴鹿郡
2	中央児童相談所	津市鳥居町258	(0592) 26-2701 2702	514	津市、久居市、松阪市、安芸郡、一志郡、飯南郡、多気郡
3	南勢志摩児童相談所	伊勢市勢田町622	(0596) 25-1111	516	伊勢市、鳥羽市、度会郡、志摩郡
4	伊賀児童相談所	上野市丸之内116	(0595) 21-3111	518	上野市、名張市、河山市、名賀郡
5	紀州児童相談所	尾鷲市中共浦子坂場1161	(05972) 2-5111	519-36	尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

婦人相談所

名 称	所 在 地	電 話 番 号	郵便番号	担 当 地 域
婦 人 相 談 所	津市桜橋3丁目79	(0592) 24-1145	514	県 下 全 域

## 精神薄弱者更生相談所

名	称	所	在	地	電	話	番	号	郵便	番	号	担	当	地	域
精神薄弱者更生相談所		津市島田町258			(0592)	26-2701			514			県	下	全	域

## 身体障害者更生相談所

名	称	所	在	地	電	話	番	号	郵便	番	号	担	当	地	域
身体障害者更生相談所		津市一身田大百留670番地2 (三玉身体障害者総合福祉センター内)			(0592)	31-0155			514-01			県	下	全	域

## 県民生活センター

名	称	所	在	地	電	話	番	号	郵便	番	号	担	当	地	域
県民生活センター		津市桜橋2丁目131			(0592)	28-2212			514			県	下	全	域
県民生活センター 高齢者総合相談センター		津市桜橋3丁目446-34			(0592)	28-5000			514			県	下	全	域

## 社会保険事務所

名	称	所	在	地	電	話	番	号	郵便	番	号	担	当	地	域
津社会保険事務所		津市桜橋3丁目446-33			(0592)	28-9111			514			津市、上野市、鈴鹿市、亀山市、久居市 鈴鹿郡、安芸郡、一志郡、阿比郡、名張郡			
四日市社会保険事務所		四日市市十七軒町17-23			(0593)	53-5511			510			桑名市、四日市市、桑名郡、員弁郡、三重郡			
松阪社会保険事務所		松阪市宮町字五反田17-3			(0598)	51-5115			515			松阪市、伊勢市、鳥羽市、飯南郡、 多気郡、度会郡、志摩郡			
尾鷲社会保険事務所		尾鷲市占戸町6-26			(05972)	2-2340			519-36			尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡			

## 第5編 関連地域社会資源

### (1) 精神薄弱者福祉施設

#### ① 精神薄弱者更生施設（精神薄弱者福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	樹心寮	津市城山1丁目12-2	三重県	70	(0592)34-3388
2	済美寮	伊勢市辻久留3-17-5	社会福祉法人 三重済美学院	105	(0596)22-3212
3	名張育成園成峯寮	名張市東田原2621	社会福祉法人三重県 精神薄弱者福祉協会	70	(05956)5-0868
4	和順寮	鈴鹿市上田町1285	社会福祉法人 和順会	30	(0593)74-3333
5	度会学園	度会郡度会町立岡池ノ奥558	三重済美学院	50	(05966)2-0294
6	三重県いなば園	久寿市稲葉町3989	三重県厚生事業団	150	(05925)2-1780
7	まもり苑	安芸郡安濃町今徳247	社会福祉法人 真盛学園	30	(05926)8-1115
8	名張育成園成美寮	名張市中村2326	社会福祉法人三重県 精神薄弱者福祉協会	45 通20	(05956)5-4518
9	長谷山寮	津市片田長谷町140-16	社会福祉法人 敬愛会	50	(0592)37-3220
10	富士見台学園	多気郡多気町神坂165	富士見台学園	40	(05983)7-2402
11	あさけ学園	三重郡菟野町杉谷1573	松の里	40	(0593)94-1595
12	聖母の家	四日市市波木町坂向330-1	三重聖母の騎士会	40	(0593)21-2855
13	紀南ひかり園	熊野市有馬町4520-313	清光会	50	(05978)9-4375
14	しらさぎ園	鈴鹿市地子町600	三鈴会	40	(0593)82-1820

#### ② 精神薄弱者授産施設（通所）（精神薄弱者福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	共栄作業所	四日市市西日野町	社会福祉法人四日市 市社会福祉協議会	30	(0593)22-1783
2	津市精神薄弱者 通所授産所	津市大字垂水1300	社会福祉法人 津市社会福祉事業団	30	(0592)26-9530
3	紀北作業所	北牟婁郡海山町上里275-20	尾鷲地区 広域行政事務組合	30	(05973)6-1601
4	三重中央 ワークキャンパス	四日市市西坂部町1157	社会福祉法人 三重福祉会	30	(0593)32-6159
5	向野園	松阪市久保町1843-7	まつさか福祉会	30	(0598)29-1533

#### ③ 精神薄弱者通所（精神薄弱者通所寮設置運営要綱）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	のぞみ荘	伊勢市辻久留3-17-5	社会福祉法人 三重済美学院	30	(0596)22-3212

#### ④ 精神薄弱者福祉ホーム（精神薄弱者福祉ホーム設置運営要綱）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	和順みずしの寮	鈴鹿市上田町1293	社会福祉法人和順会	10	(0593)74-3333



## (2) 児童福祉施設

### ① 乳児院（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	津市児童福祉会館	津市垂水1300	社会福祉法人 津市社会福祉事業団	10	(0592)28-3920
2	希望の家	四日市市大字泊村954	四日市市	20	(0593)46-1382

### ② 養護施設（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	みどり自由学園	津市乙部33-5	社会福祉法人 みどり自由学園	60	(0592)26-3022
2	聖マツチャ子供の家	鳥居町213	聖マツチャ子供の家	40	(0592)28-5984
3	希望の家	四日市市大字泊村954	四日市市	50	(0593)46-1371
4	精華学院	伊勢市吹上2-5-41	社会福祉法人 明照浄済人会	30	(0596)28-2678
5	天理教三重互助会	伊勢市倭町30	宗教法人天理教会 伊勢分教会	30	(0596)28-4852
6	名張養護学園	名張市朝日町1357	社会福祉法人 名張厚生協	45	(05956)3-0717
7	里山学園	安芸郡河芸町影重1162	里山学園	65	(05924)2-0116
8	聖の家	多気郡多気町津留548	社会福祉法人聖の家	60	(05983)8-2805
9	真盛学園	安芸郡安濃町今徳247	社会福祉法人 真盛学園	40	(05926)8-2121

### ③ 精神薄弱児施設（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	津長谷山学園	津市片田長谷町230	社会福祉法人敬愛会	100	(0592)37-1055
2	三重済美学院	伊勢市辻久留3-17-5	社会福祉法人 三重済美学院	50	(0596)22-3212
3	名張育成園児童寮	名張市中村2326	社会福祉法人三重県 精神薄弱者福祉協会	40	(05956)5-0271
4	鈴鹿和順学園	鈴鹿市上田町1285	社会福祉法人和順会	30	(0593)74-3333
5	聖母の家	四日市市波木町398-1	社会福祉法人 三重聖母の騎士会	100	(0593)21-2855
6	三重県いなば園	久居市稲葉町3989	三重県厚生事業団	50	(05925)2-1780

### ④ 精神薄弱児通園施設（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	あけぼの学園	四日市市西日野町4070-1	四日市市	30	(0593)22-2714

### ⑤ 精神薄弱児施設-第一種自閉症児施設（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	三重県立小児心療センターあすなろ学園	津市城山1丁目12-3	三重県	80	(0592)34-8700



⑥ 虚弱児施設（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	津市児童福祉会館	津市垂水1300	社会福祉法人 津市社会福祉事業団	50	(0592)28-3920

⑦ 体不自由児施設（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	草の実学園	津市城山1丁目29-25	三重県	110	(0592)34-2178

⑧ 体不自由児療育センター（心身障害児通園事業実施要綱）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	津市療育センター (心身障害児通園事業)	津市桜橋3丁目204	津市	20	(0592)25-4309
2	四日市市のちから心身療育センター (心身障害児通園事業)	四日市市西日野町4070-1	四日市市	20	(0593)22-2714
3	桑名市療育センター (心身障害児通園事業)	桑名市江場111-1	桑名市	20	(0594)23-1392
4	松阪市療育センター	松阪市殿町1360-16	松阪市	20	(0598)23-3359
5	志摩療育センター (心身障害児通園事業)	志摩郡阿児町神明1539	志摩広域行政組合	20	(05994)3-2112
6	おおぞら児童館 (心身障害児通園事業)	伊勢市八日市場9-30	伊勢市	20	(0596)25-8753
7	鈴鹿市療育センター	鈴鹿市神戸地子町383-1	社会福祉法人 鈴鹿市社会福祉協議会	30	(0593)82-5971
8	名張市中心身障害児通園事業「めばえ教室」	名張市中村2326	社会福祉法人三重県 精神薄弱者福祉協会	20	(05956)5-0271

⑨ 国立療養所（進行性筋萎縮症児療育委託施設）（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	国立療養所鈴鹿病院	鈴鹿市加佐登町658	国	120	(0593)78-1321

⑩ 国立療養所（重症心身障害児委託施設）（児童福祉法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	国立療養所鈴鹿病院	鈴鹿市加佐登町658	国	120	(0593)78-1321
2	国立療養所静養病院	一志郡白山町二本木1183	〃	40	(05926)2-3511

⑪ 特殊教育諸学校

学校名	所在地	主な障害の種別	設置部名
盲学校	津市	視覚障害	小学部・中学部・高等部・専攻科
聾学校	津市	聴覚障害	小学部・中学部・高等部・専攻科・幼稚部
西日野養護学校	四日市市	精神薄弱	小学部・中学部・高等部
稲葉養護学校	久居市	精神薄弱	小学部・中学部・高等部
城山養護学校	津市	肢体不自由	小学部・中学部・高等部
城山養護学校草の実分校	津市	肢体不自由	小学部・中学部
度会養護学校	度会町	肢体不自由	小学部・中学部・高等部
杉の子養護学校	鈴鹿市	病弱	小学部・中学部
緑ヶ丘養護学校	津市	病弱	小学部・中学部

## (3) 老人福祉施設

## ① 養護老人ホーム(老人福祉法)

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	清風園	桑名市江場 83	桑名市	50	(0594)22-2178
2	翠明院	員弁郡藤原町 1166	社会福祉法人翠明院	70	(059446)2034
3	寿楽園	四日市市泊村 1050-13	四日市市	120	(0593)45-0208
4	みずほ寮	三重郡菟野町菟野 5833-1	三重郡老人福祉施設組合	70	(0593)94-1121
5	南山荘	鈴鹿市山辺町 1055	鈴鹿市	50	(0593)74-1056
6	清和荘	龟山市布気町 602	龟山市鈴鹿郡関町老人福祉施設組合	50	(05958)2-0637
7	高田慈光院	津市一身町 278	社会福祉法人高田福祉事業協会	100	(0592)32-2055
8	青松園	津市高洲町 15-43	社会福祉法人青松園	80	(0592)28-2661
9	一志寮	一志郡嬉野町中川 1528-101	一志社会福祉施設組合	50	(05984)2-1116
10	延寿院	松阪市井村町 277-1	松阪市	70	(0598)21-1982
11	万亀会館	伊勢市二俣町 577-1	伊勢市	100	(0596)24-5052
12	高砂寮	度会郡小俣町宮前 38	度会郡町村老人福祉施設組合	60	(0596)22-1045
13	花園寮	志摩郡阿児町鶴方 804	志摩広域行政組合	80	(05994)3-0166
14	恒風寮	上野市大野木 1997	社会福祉法人福寿会	50	(0595)20-1001
15	梨の木園	上野市朝風 734	社会福祉法人上野市社会事業協会	70	(0595)23-1555
16	みさと園	名張市新田 2230-1	名張市厚生協会	50	(05956)5-4943
17	借楽荘	阿山郡伊賀町御代 877	伊賀地区町村老人福祉施設組合	50	(059545)3010
18	崇雲寮	多気郡宮川村薮 1205	飯南郡多気郡町村老人福祉施設組合	50	(05987)6-0025
19	聖光園	尾鷲市南浦 1371-4	尾鷲市	50	(05972)2-0669
20	赤羽寮	北牟婁郡紀伊長島町島願 1402-1	紀伊長島町	50	(05974)7-1830
21	松清園	南牟婁郡御浜町下市木 3487	紀南社会福祉施設組合	50	(05979)2-1032

## ② 特別養護老人ホーム(老人福祉法)

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	長寿苑	桑名市額田 1256-2	社会福祉法人花壇福祉会	50	(0594)31-7200
2	翠明院	員弁郡藤原町大字上之山田 433-2	社会福祉法人翠明院	50	(059446)4678
3	小山田特別養護老人ホーム	四日市市山田町 5500-1	社会福祉法人青山里人会	140	(0593)28-2150
4	第二小山田特別養護老人ホーム	四日市市山田町大欠 5505	社会福祉法人青山里人会	100	(0593)28-2276
5	陽光苑	四日市市西坂部町 1127	社会福祉法人三重福祉	50	(0593)31-5183

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
6	菰野聖十字の家	三重郡菰野町宿野 1433	社会福祉法人会 鈴鹿聖十字会	70	(0593)94-2511
7	聖十字の家	鈴鹿市木田町間瀬口 1961	社会福祉法人会 鈴鹿聖十字会	60	(0593)74-0318
8	かなしょうづ園	鈴鹿市地子町字金生水814-30	社会福祉法人天年会	80	(0593)83-0955
9	高田光寿園	津市一身田 282-1	社会福祉法人 高田福祉事業協会	100	(0592)32-4575
10	慈宗院	津市片田長谷町西谷 167-1	社会福祉法人敬愛会	120	(0592)37-0069
11	泉園	津市野田字千束 2059	社会福祉法人寿泉会	60	(0592)37-2526
12	報徳園	津市河辺町字小広 1317-1	社会福祉法人 高田真善会	50	(0592)28-1951
13	青松園	津市高洲町 15-43	社会福祉法人青松園	30	(0592)28-2661
14	一志寮	一志郡理野町大字中川1528-101	一志社会福祉施設組合	50	(05984)2-1116
15	南勢カトリック 特別養護老人ホーム	松阪市小河坂町 1986	社会福祉法人 聖ヨゼフ会	90	(0598)58-2230
16	さくら園	松阪市下鎗路町字里中 409-1	社会福祉法人 さくら福祉会	50	(0598)29-1352
17	吉祥苑	松阪市鎌田町字南沖 275-1	社会福祉法人 すみれ会	50	(0598)51-1788
18	明星園	多気郡明和町上野 435-1	三重県厚生事業団	100	(05965)2-0386
19	高砂寮	度会郡小俣町宮前 38	度会郡町村 老人福祉施設組合	70	(0596)22-1045
20	真砂寮	度会郡南島町行蔵ミツネ 287	度会郡町村 老人福祉施設組合	50	(05967)2-2115
21	才庭寮	志摩郡阿児町神明 1537	志摩郡広域行政組合	80	(05994)3-2112
22	第二梨の木園	上野市朝屋字梨の木 731	社会福祉法人 上野市社会事業協会	50	(0595)23-1555
23	福寿園	上野市西山字治田東 1650	社会福祉法人福寿会	80	(0595)24-3636
24	名張特別養護 老人ホーム	名張市新田 2230	社会福祉法人 名張厚生協会	50	(05956)5-2539
25	鶴寿園	阿山郡大山田村真泥 2066	社会福祉法人 グリーンセンター福祉会	50	(05954)6-1021
26	赤羽寮	北牟婁郡伊長島町島原1402-1	紀伊長島町	50	(05974)7-1830
27	たちばな園	熊野市有馬町字中曾 3466-1	社会福祉法人杏南会	50	(05978)9-5565
28	宝寿園	南牟婁郡紀宝町北松枝 90	紀南特別養護 老人ホーム組合	60	(0735)21-0903

③ 軽費老人ホーム（老人福祉法）

番号	施設名	種別	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	小山田軽費老人ホーム	B型	四日市市山田町5500-1	社会福祉法人 青山里会	50	(0593)28-2513
2	第二小山田軽費 老人ホーム青山の里	A型	四日市市山田町 5496	社会福祉法人 青山里会	50	(0593)28-2513
3	安濃聖母の家	A型	安芸郡安濃町妙法寺892	社会福祉法人 聖フランシスコ会	50	(05926)8-2000
4	泰山荘	A型	松阪市鎌田町南沖284-1	社会福祉法人 鈴鹿の音会	50	(0598)51-0500
5	尾鷲長寿園	A型	尾鷲市大字南浦4584-3	社会福祉法人 尾鷲長寿園	50	(05972)2-8100

④ 老人福祉センター（老人福祉法）

番号	施設名	種別	所在地	電話番号
1	津市社会福祉センター	A	津市丸之内27-10	(0592)27-6548
2	松阪市老人福祉センター	A	松阪市下村町字西ノ庄875-3	(0598)29-0715
3	四日市市中央老人福祉センター	A	四日市市口永東1-2-27	(0593)46-4066
4	久居市老人福祉センター	A	久居市元町2119	(05925)6-2188
5	名張市老人福祉センター	A	名張市丸之内54-8	(05956)3-7397
6	大安町老人福祉センター	特A	員弁郡大安町大字大井田2704	(05947)8-2525
7	勢和村老人福祉センター	A	多気郡勢和村大字丹生1798-3	(059849)3004
8	四日市市西老人福祉センター	B	四日市市西坂郷町字小松ヶ谷1397-1	(0593)26-5888
9	桑名市総合福祉会館	特A	桑名市常盤町51	(0594)23-2855
10	津市老人福祉センター	特A	津市垂水1300	(0592)28-2623
11	飯高町老人福祉センター	特A	飯南郡飯高町宮前字中谷704-2	(05984)6-1315
12	明和町老人福祉センター	特A	多気郡明和町大字馬之上944-5	(05965)2-2181
13	木曾岬村老人福祉センター	特A	桑名郡木曾岬村大字西対海地250	(05676)8-8111
14	一ノ井老人福祉センター	B	名張市赤目町一ノ井311-2	(05956)4-2947
15	大内山村老人福祉センター	A	度会郡大内山村861-1	(059872)2949
16	紀勢町老人福祉センター	特A	度会郡紀勢町錦915-45	(05987)3-3227
17	小俣町老人福祉センター	A	度会郡小俣町2670	(0596)28-9426
18	(心交苑) 大宮町老人福祉センター	特A	度会郡大宮町野添887-7	(05988)3-2440
19	海山町老人福祉センター	特A	北牟婁郡海山町大字相賀481-1	(05973)2-0500
20	紀宝町老人福祉センター	特A	南牟婁郡紀宝町神内277-2	(0735)32-2023
21	二見町老人福祉センター	特A	度会郡二見町大字江字大多茂348	(05964)3-4400

⑤ 有料老人ホーム（老人福祉法・厚生年金保険法）

番号	施設名	所在地	経営主体	定員	電話番号
1	厚生年金 三重ながしま荘	桑名郡長島町松之本地区堤外 604-2	財団法人厚生同	長期35 短期38	(05944)2-2661
2	伊勢の郷	多気郡明和町大字有爾中579	株式会社伊勢の郷	335	(05965)2-1101

## 第6編 こころの健康センター図書目録

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
1	健康と福祉(厚生行政百問百答)	厚生省監修	厚生問題研究会
2	狼に育てられた子	中野善達著	福村出版
3	小児メディカルケアシリーズ 6	上村菊朗共著	医歯薬出版
4	7	若林慎一郎著	〃
5	8	福山幸夫著	〃
6	13	田中美郷著	〃
7	14	村田豊久著	〃
8	15	司野友信著	〃
9	20	三好邦雄著	〃
10	精神医療の実際	菱山珠夫共編	金原出版
11	精神科 MOOK 4	島岡安雄著	〃
12	6	〃	〃
13	8	〃	〃
14	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
15	心身の力動的発達		
16	現代精神分析 1	小比木啓吾著	誠信書房
17	2	〃	〃
18	精神衛生のための100か条	中沢正夫著	創造出版
19	精神衛生と法的問題	高宮澄夫共訳	牧野出版
20	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
21	アリエティ分裂病入門	近藤喬一訳	星和書店
22	臨床神経心理学	濱中淑彦共訳	文光堂
23	老年期の精神科臨床	室伏君士著	金剛出版
24	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	〃
25	精神分裂病の治療と社会復帰	峰矢英彦著	〃
26	精神分裂セミナー I	小比木啓吾共編	岩崎学術文庫
27	II	〃	〃
28	III	〃	〃

番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
29	精神分裂セミナーⅣ	小比木 啓 彦 著	岩崎学術文庫
30	老年の精神医学	加藤 伸 勝 監訳	医学書院
31	ポウルビル母子関係入門	作田 勉 監訳	星和書店
32	病むということ	江畑 啓 介 訳	ク
33	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	ク
34	断酒学	村田 志 良 著	ク
35	仮面デプレッションのすべて	筒井 末 春 著	新興医学出版社
36	老年期の精神障害	長谷川 和 夫	ク
37	睡眠障害	山口 成 良 共著	ク
38	児童の発達と行動	加藤 正 明 共訳	医学書院
39	職場の精神衛生	春原 千 秋 共編	ク
40	精神障害者のデイケア	加藤 正 明 共編	ク
41	社会精神医学の実際 2	佐藤 亮 三 編	ク
42	3	逸見 武 光 編	ク
43	精神衛生と保健活動	中澤 正 夫 共編	ク
44	老人保健の基本と展開	松崎 俊 久 編	ク
45	地域精神衛生の理論と実際	加藤 正 明 監修	ク
46	精神分析用語辞典	村上 仁 監訳	みすず書房
47	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
48	児童精神衛生マニュアル	松本 和 雄 共著	日本文化科学社
49	医療ソーシャルワーカー論	児島 美都子 著	ミネルウツ書房
50	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
51	アルコール症	大森 正 英 訳	東京大学出版会
52	脳と心を考える	井上 英 二 編	講談社
53	睡眠障害	上田 英 雄 編	南江堂
54	行動と脳	今村 護 郎 著	東京大学出版会
55	日本の中高年 1(上)	濱野 修 一 編	垣内出版
56	1(下)	ク	ク
57	2	袖井 孝 子 編	ク
58	3	袖井 孝 子 編	ク



番号	書名	著、編、訳、者名	出版社名
59	日本の中高年 4	戸川行男 共編	垣内出版
60	5	本村 汎 共編	ク
61	6	前田 信雄 著	ク
62	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
63	2	ク	ク
64	3	ク	ク
65	4	ク	ク
66	講座 日本の老人 1	金子 仁郎 共編	垣内出版
67	2	岡村 重雄 共編	ク
68	3	那須 宗一 共編	ク
69	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
70	実務衛生行政六法 61年版	厚生省 監修	新日本法規
71	精神科 MOOK 3	島 蘭 安雄 編	金原出版
72	老人ばけの理解と援助	三宅 貴夫 編	医学書院
73	ライフサイクルからみた女性の心	石川 中 共訳	ク
74	社会精神医学の実際 2	加藤 伸勝 著	ク
75	老人心理へのアプローチ	長谷川 和夫 共著	ク
76	精神医学と社会療法	秋元 波留夫 著	ク
77	カウンセリングの実際問題	河合 準雄 著	誠信書房
78	カウンセリングと人間性	ク	創元社
79	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田 晋 著	創造出版
80	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
81	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木 正義 編	診断と治療社
82	備頭葉てんかん	宇野 正威 著	星和書店
83	精神疾患と心理学	神谷 美恵子 著	みすず書房
84	増補版 精神医学事典	加藤 正明 共編	弘文堂
85	ステッドマン医学大事典	—————	メディカルビュー
86	ニュー セックスセラピー	野末 源一 訳	星和書店
87	臨床てんかん学	和田 豊治 著	金原出版
88	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社

番号	書名	著、編、訳者名	出版社名
89	遺伝精神医学	坪井孝幸著	金原出版
90	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上和雄共著	牧野出版
91	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
92	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
93	社会精神医学の実際 4	加藤重三著	医学書院
94	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫著	〃
95	人類遺伝入門	大倉興司著	〃
96	精神科のソーシャル・スキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
97	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
98	夫婦家族療法	鈴木浩二訳	誠信書房
99	事例検討と看護実践	外口玉子編	看護事例検討会
100	心理療法の実際	河合隼雄編	誠信書房
101	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
102	ユキの日記	笠原高編	みすず書房
103	自己と他者	志貴春彦共訳	〃
104	分裂病家族の研究	井村慎郎著	〃
105	森田正馬全集 1	森田正馬著	白揚社
106	2	〃	〃
107	3	〃	〃
108	精神科ハーフウェイハウス	加藤正明共訳	屋和書店
109	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭編	岩崎学術出版社
110	メンタルヘルス解説事典	大原健志郎編	中央法規出版
111	臨床体験をつなぐ事例検討	外口玉子編	バオバブ社
112	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子編	〃
113	方法としての事例検討	外口玉子著	日本看護協会出版



昭和61年度版 三重県こころの健康センター所報

昭和63年3月発行  
三重県保健環境部保健予防課  
三重県こころの健康センター  
(三重県精神衛生センター)  
〒514 津市桜橋3丁目446-34  
電話 0592-23-5117